

# ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童の育成 ～総合的な学習の時間における探究的な「町と真田の学習」を通して～

## 〇研究の概要

本研究は、ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童の育成を目指すものである。そのための手だてとして、総合的な学習の時間において、町と真田についての探究的な学習を取り入れる。沼田に寺院が多くあること、道幅が突然狭くなり、再び広くなる道があること、水路が複雑に巡らされていることなどの町の学習を足がかりに探究的活動を通して自己課題を解決していく。その中で、真田の学習へとつながりさらに探究活動を続ける。そして、それをまとめて発信することで、歴史ある沼田への誇りや、今もその歴史とつながるふるさとに対しての愛着を育むことができると考える。

【キーワード】沼田への誇りと愛着 探究的な「町と真田の学習」

## I 主題設定の理由

現行学習指導要領改訂の際の、中教審答申の中に、「新たに、公共の精神、生命や自然を尊重する態度、伝統や文化を尊重し、我が国と郷土を愛すると共に、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」とある。

なぜ地域や郷土が注目されるようになったか。それは、国際社会の中で活躍する日本人の育成を図るという日本の教育の大きな課題の一つを達成するために、必要不可欠であるということと共に、我が国や郷土の「伝統や文化についての深い理解は、他者や社会との関係だけでなく、自己と対話しながら自分を深めていく上でも極めて重要である」と捉えているからだ。

中教審の答申の中では、現代の日本において自己肯定感の低い子供達も多く、その解消が大きな課題の一つであると述べられている。その課題を解決するためにも、地域の学習をすることの有効性について触れられている。現行学習指導要領の中では複数の教科等でこれに触れているが、総合的な学習の時間の中では、指導計画作成で配慮すべき学習活動の例示の中に、新たな項目として加えられた。

学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、**地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習**などを行うこと。

地域や郷土の学習を行うことは、日本の教育の中で重要なテーマの1つとなっている。

群馬県においても、文部科学省が分析した子供の現状や課題はあてはまり、そこに配慮した学校教育の指針が明示されている。「平成27年度学校教育の指針 指導の重点」の一番最後にあげられている「郷土資源、文化遺産」がそれにあたる。解説編の中では、「身近にある文化財に気付き、文化財を核のひとつとした地域の絆の一員としての自覚を促します。郷土の歴史や文化、文化財を愛着と誇りを持って語るができる第一歩になります。」と書かれている。

もちろん沼田市教育委員会もこれに倣っている。「平成27年度沼田市教育行政方針」の中では、主として以下の各項目でこれに触れている。

### 【基本理念】

一、郷土を愛する心、他を思いやる心などの道徳性を培います。

### 【沼田市重点施策】

1 (6)⑤豊かな自然や文化的資源を生かした郷土学習（沼田大好き！ふるさと学習）

#### 4 (2)④真田氏・土岐氏をはじめとする沼田の歴史に関する資料の整理及び活用。

沼田市の重点施策として、「沼田大好き！ふるさと学習」がある。国や県が示す今後の教育の重要なテーマを受け、沼田市が独自に進めている重点施策の1つだ。平成25年度の沼田市教育研究所の実践の中では、【9年間を見通した「沼田大好き！ふるさと学習」の創造～総合的な学習の時間の系統性の確立と小中連携の実践を通して～】というテーマで研究が行われた。

その実践の中で明らかになった成果と課題を抜粋して引用する。

成果：ふるさと学習を重ねていくことで着実に郷土に対する理解を深め、愛情を深めていく子供達の変化がはっきりと見えたこと。

課題：子供達は「沼田について知りたい」という思いが強く、自分たちの住んでいる地域に対する興味・関心はさらに高い。その思いをどのようにつなげ、驚きや感動をとまなう新たな発見や体験をさせていくか。

現在でも、「沼田大好き！ふるさと学習」は、郷土への理解を深め、ふるさとへの愛情を深めていく上で効果をあげているが、「その子供達の思いを、いかにして発展させていくか」という点については、課題として継続し、残されている。

これらの教育の現状に加え、私たち研究員所属校3校でのクラスの実態を見ても、「自分への自信のなさから、発表の際に声が小さかったり、責任ある仕事に積極的に取り組めなかったりする」など、自己肯定感を高めることは、学級経営上、非常に重要なテーマとなっている。幸い、ふるさと沼田については、肯定的に捉えている児童が多い。しかし、実際に沼田の何を誇るのか、どのような愛着があるのか、沼田のどんな良さを発信したいのか等、はっきりと自信をもって主張できる児童はほとんどいない。

このような児童が、沼田の町並みを調べる中で、お寺が多いこと、鍵型に交差している道や、行き止まりとなる道もあること、水路が複雑に流れていることなどの事実と出会ったなら、おそらく多くの児童が疑問をもつことと思う。そしてそれぞれが課題を立て、友達や地域の方との協同によってその課題を解決する中で、沼田市に真田信之という立派な藩主がいたこと、小松姫の心躍るエピソードなどに会うことで、子供達はそれぞれ、沼田を誇りに思うだろうし、また沼田への愛着はより具体的に、深まっていくことだろうと考える。

さらに、そのような児童を育成していくことは、現在の群馬県が抱えている課題の1つである「県外への人口流出」を防ぐための一助にもなるだろうと考える。

以上のことから、総合的な学習の時間において、探究的な「町と真田の学習」の単元を作成し、学習を進めることによって、ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童を育むことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

総合的な学習の時間において、ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童を育成するために、探究的な町の学習から真田の学習へとつなぎ、それをまとめ、発信していくことの有効性を、実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し（研究仮説）

総合的な学習の時間において、探究的な町の学習から真田の学習へとつないでいけば、ふるさと沼田に対する学習意欲を高めることができるであろう。さらにそれをまとめ、発信していけば、ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童を育成していくことができるであろう。

## IV 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

#### (1) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

##### ①学習方法に関すること

ア 学校のまわりの建物や道路、用水などの様子を調査し、他の市町村と比較するなどして分析する。

イ 分かったことを、箇条書きにしたり、地図に表したりする。

##### ②自分自身に関すること

ア 日常生活において、沼田に誇りをもち、沼田の街並みや沼田の水などを大事にしようとしたり、歴史を調べたりしようとする。

イ ふるさと沼田の良さを発見し、自分と地域とのつながりに気付き、自分にできることを考えようとする。

ウ 自ら課題を見つけ、主体的に解決しようとする。

##### ③他者や社会との関わりに関すること

ア 友達と協力して調査したり、地域の人々から話を聞いたりして探究する。

イ 地域の人や友達と協力して、ふるさと沼田の良さを発信しようとする。

ウ 仲間と協同しながら課題を解決する。

##### ④単元で学ぶ内容

ア 地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題

イ 沼田に寺院が多くあること、鍵型に交差する道があることなどと、真田氏との関わり

ウ 水路が複雑に巡らされていることなどと、真田氏との関わり

#### (2) 基本的な考え

##### ①方法（手だて）

- ・児童にとって身近にある用水や沼田の歴史や由来など「町の学習」についてくり返し地域の人々と関わりながら探求的に調査していく。その中で真田氏との関係に気づき、「真田の学習」へとつないでいく。400年にわたって用水路や道路、街並みを支えてきた沼田市民の思いや願い等を聞き取りながらさらに探求的な活動を続けていく。

- ・その結果をまとめて報告したり、発表したり、発信したりするなどの活動をする。

##### ②めざす児童像（ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童）

発達段階における具体的な姿を、以下のように考えた。

- ・低学年→ 家族、友達、地域の人々、身近な地域の自然や行事等、身の回りの沼田について良いなあと思うことを、一つか二つ、理由をつけて言える児童。
- ・中学年→ 自分の住んでいる地域だけでなく、隣接している地域の沼田や、直接触れ合う機会のない沼田の偉人について良いなあと思うことを、一つか二つ、理由をつけて発信できる児童。
- ・高学年→ ふるさと沼田を全体的に捉え、沼田の人、環境、文化、歴史などについて、良いなあと思うことを、一つか二つ、理由をつけて効果的に発信できる児童。

##### ③用語についての定義

ア ふるさと沼田への誇りと愛着

- ・自分が生まれ育った沼田の家族、友達、地域の人々、自然、伝統、文化、行事、歴史等、郷土の良さや価値に気付き、誇らしく思う心。具体的には、沼田を誇らしく思う理由が言え、自信をもって紹介できることを、「誇り」と考えた。

- ・長い間親しんできた沼田に対して、心が強くひかれて、離れられない気持ち。具体的には、これから、あるいはいつかは沼田に住みたいと思う気持ちを、「愛着」と考えた。

イ 探求的な「町と真田の学習」

- ・児童にとって身近にある用水や沼田の歴史や由来など「町の学習」について探求的に調査していく。その中で真田氏との関係に気いて「真田の学習」へとつないぎ、探求的な活動を続けていく。その結果をまとめて報告、発表、発信していく活動と考えた。

**(3) 基本的な指導過程**

※ 探求的な学習（問題解決学習）を、以下の流れで行う。

1, つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のまわりの調査</li> <li>・沼田市の中心街の地図の調査</li> <li>・他の市町村との比較・分析</li> <li>・沼田市の中心街の特徴をまとめる</li> <li>・生活の中で水の大切さについて考える</li> <li>・身近な地域の水は、どこから来ているのか調査する</li> <li>・身の回りに流れる水は、川なのかどうか考える</li> <li>・それぞれ課題を設定する</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             町 の 学 習 ↓ 真 田 の 学 習           </div>
2, あつめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料（図書・パンフレット）の読み取り</li> <li>・水路や道路、寺などの見学、調査</li> <li>・地域の人からの説明、お話</li> <li>・個人的に進めるだけでなく、班やグループとの関わりの中でも学習を進めていく（疑問をもつ・共有する）</li> <li>・「町の学習」から「真田の学習」へとつなげる</li> </ul>	
3, えらぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかったこと、気づいたこと、思ったことをノートなどにまとめる。</li> <li>・個人的に進めるだけでなく、班やグループとの関わりの中でも学習を進めていく（疑問をもつ・共有する）</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             発 信           </div>
4, 発信する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙、模造紙などを使って、まとめる</li> <li>・プレゼンテーションソフトなどを使ってまとめる</li> <li>・ビデオカメラなどを使ってまとめる</li> <li>・授業参観等で、発表会を開く</li> <li>・学んだことを、FM OZE の番組等を通して、広く沼田市民に発信する</li> </ul>	

**(4) 研究の全体構想**

次ページ

目指す児童像

ふるさと沼田への

**誇りと愛着**

をもった児童

**自信**

**自己肯定感**

検証②

教科指導

沼田の良さを **発信** する

国語

社会

算数

理科

生活

音楽

図工

家庭

体育

検証①

真田の学習

真田氏との  
つながり

まとめ・表現

模造紙・発表会・PPT  
発表・沼田ガイド・子  
ども観光大使・動画発  
信・FM OZE など

整理・分析

マンガ沼田の歴史  
パンフレット  
地域の人の話 など

情報の収集

課題の設定

町の学習

学校周辺の地図  
地図記号の学習  
水路・飲料水

探究的

本質的学習

沼田を知る

総合的な学習の時間

町と真田の学習

児童の実態

- 「沼田」について、対象児童のうちほとんどが「好き」と答えているが、「わからない」と答える児童もいる。
- 沼田が好きだが、自慢できるところをエピソードとして話せる児童は少ない。
- 自分の住んでいる地域外のことや、自分に関わりの少ないことにはあまり詳しくない。

## 2 研究の方法

### (1) 研究の実践計画

4・5月	総合的な学習の時間についての文献研究 沼田の歴史と真田氏についての文献研究 児童の実態把握 — 課題の明確化 研究主題・研究内容の検討・実態調査（アンケート）
6月	主題検討会（6月16日） — 研究の方向確認・修正
7月	実践計画検討 教材作り
8月	第一次検討会準備 教材作り 実践準備
9月	第一次検討会（9月15日） 教材作り 実践準備、指導案検討
10・11月	指導案検討・実践 川田小学校（10月上旬） 池田小学校（10月中旬） 沼田小学校（10月下旬）
12月	事後調査（アンケート） 成果と課題について検討
1月	第二次検討会準備 第二次検討会（1月26日）
2月	紀要原稿作成・提出 修了式・成果発表会（2月23日）

### (2) 検証計画

検証の観点	検証の方法
①総合的な学習の時間において、探究的な町の学習から真田の学習へとつないだことで、ふるさと沼田に対する学習意欲が高まったか。	①アンケートによる実態調査 【「沼田について大切にしたいと思う場所等は何か」「沼田以外の人に教えたいことは何か」というアンケートに対して、実践の前後でその内容が質的にも量的にも高まったか。】
②それをまとめて発信したことは、ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童を育成していくために有効であったか。	②実践後の子供達の感想、アンケートの数値の変化 【めざす児童像に沿った感想が書けているか。「沼田は好きか」というアンケート項目の数値が、実践の前後で量的に高まったか。】

## 1 単元名 「沼田博士になって地域の自慢を発信しよう」

### 2 本研究における単元の位置づけ

本単元は、沼田市内を流れる用水路(城堀川)に着目した水に関する学習を進めるうちに、沼田の誇る戦国武将である真田信之の業績の一つであることを知ったり、大切にしたいと思ったりする知識と気持ちを大切に育てることで、郷土沼田に対して、誇りと愛着を持つことができる児童の育成を意図したものである。また、児童が前学年で学習した地図記号の学習(3年社会科)やくらしと水に関する学習(4年社会科)を活用することで教科横断的な学習や学習の深化をねらいとしている。

本単元実施にあたり、児童の身近な用水路に着目することはとても意味のある学習である。なぜならば、本校の学区は水はけのよい子持山の斜面に位置しており、雨水は保水されことなく流れていくため、水が決して豊かな土地とは言えないためである。例えば、川田地区には、川沿いにしか田んぼがなく畑が主であることや、プールの注水時に簡易水道組合長への連絡が必要なことが挙げられる。このような土地で生活する児童の実体験や家庭での話を通して、用水や上下水道の整備には多くの苦労が存在していることを知るができるであろう。さらに、それがおよそ400年も前の沼田台地でも行われていたことを知ることで、当時の苦労や用水路を整備した真田信之に対して共感的・体験的な理解を基にした学習が可能となる。このような町の学習から真田の学習を行うことで、真田氏の存在を沼田の誇りや沼田への愛着と感ずることのできる児童の育成ができると考えている。

そこで、本単元の導入時には、川田小学校区における水事情を説明したり、家庭や地域の話に基づいたりする町の学習を進めていく。次に、川田地区と水事情が似ていると想定できる沼田台地の水についての学習を行う。ここで、児童の仮説として、「川田地区は子持山と利根川の間にある土地であり、沼田台地も似たような地形になっていることから、水について苦労したのではないか」と考えさせる。この考えを基に沼田を流れる城堀川や川場用水などに着目して探究していく。この探究的な学習を通して、城堀川に川場用水を引き込むときの苦労や工夫から真田の学習へつなげ、それをまとめて発信することで、城堀川を沼田の誇りとして感じ、沼田への愛着を持った児童が育つと考えている。

### 3 本研究に関する児童の実態 (男子13名、女子10名、計23名)

本単元を実施する学級の児童に対して事前に沼田についてのアンケートを実施した。その結果、沼田が大好き・好きと答えた児童の割合は100%であった。しかし、具体的に「沼田を自慢してください」と問うと「自然が豊かである」「人が親切」などの回答が多く見られた。具体的な沼田の地名や行事である「沼田公園」や「沼田まつり」が自慢であると答えた児童は、それぞれ48%と78%程度に留まった。即ち、児童は沼田が好きだが、沼田を具体的に自慢できないことが明らかとなった。特に、自校周辺のものにしか視点が当たっていないこともアンケート結果から読み取ることができた。例えば、沼田公園があることや地域の特産品である枝豆を答える児童が多くいる。しかし、沼田に関する有名な人物や歴史的な場所などを答えることはできなかった。このアンケートの考察として、児童は生まれ育った沼田しか知らないために、「沼田が好き」と答えているのではないかと考えられる。それ故、沼田を自慢できる児童が少ないのではないかと考えた。

## 4 単元の目標

探究的な川田地区の水事情の学習から真田氏の業績である城堀川などの用水路の学習へとつなぎ、まとめて自信をもって発信することを通して、ふるさと沼田を誇りに思ったり愛着を持ったりすることができる。

## 5 評価規準

「IV - 1 - (1) 単元で育てようとする資質や能力及び態度」を踏まえ、以下の通り設定する。

### 【関心・意欲・態度】

- ・身近な水や城堀川に関して進んで課題を見つけようとしている。〔②ーウ、④ーア〕
- ・城堀川に関して前時までの学習を踏まえて、自分から進んで課題やテーマとなりそうな疑問や問いから学習課題を設定し、学習計画を立てることができる。〔②ーア〕
- ・沼田の良さを知り、それを多くの人に発信することを通して、ふるさと沼田を誇りに思ったり愛着をもったりする。〔②ーア、②ーイ、③ーイ〕

### 【思考・判断・表現】

- ・友だちと協力して資料を集めたり、整理したりすることができる。〔②ーイ、③ーウ〕
- ・地域の人やゲストティーチャーから話を聞いたり、調査を通して得たりした資料をまとめることができる。〔③ーア〕
- ・ふるさと沼田の良さを発信することができる。〔②ーイ、③ーイ〕

### 【技能】

- ・学習課題を追究するために適した資料を取捨選択することができる。〔①ーイ〕
- ・学習課題を解決するために必要な情報を自ら考えて見つけ、整理することができる。〔①ーア〕

### 【知識・理解】

- ・城堀川に関する特徴や歴史的な経緯を資料や多くの情報を使いながら理解している。

〔④ーイ、④ーウ〕

## 6 単元計画 (全20時間予定、本時はその3時間目)

過程	時間(時)	学習活動 (○：教科との関連)	児童の意識の流れ	支援および留意点 (・：指導方法、 <b>太字</b> ：支援、※：留意点)	評価 (下線部：十分満足)
つかむ	2	1. 身近な水の問題から学習課題を見つける ○くらしと水(社会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川田小学校の池の水はどこから来ているのだろうか。</li> <li>・最短経路を通さなくて川に沿って迂回させるなど、遠回りしているのはなぜだろう。</li> <li>・利根川や片品川は沼田台地の下を流れているぞ。</li> <li>・水道ができる前は、利根川や片品川から毎日水を運んできたのかな。</li> <li>・沼田台地の真ん中に川のようなものが見えるぞ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①川田小学校の池の水はどこから来ているのか調べよう。</li> <li>・校地外の用水路から引き込まれているため、池の水のパイプをたどり、迂回しながら運ばれてくる理由を考えさせる。</li> <li>②沼田市の全景写真を見せ、沼田市内に川が少ないことを確認し、昔の人の水事情を考えさせる。</li> <li>・城堀川が人工的な川であることを説明する。</li> <li><b>水道や自動車などが無い時代について考えることができるよう支援を行う。</b></li> <li><b>城堀川について、沼田市の白地図を用意し、色鉛筆で用水をぬることで意識づけをする。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な水や城堀川に関して<u>進んで</u>課題をみつけようとしている。</li> <li>【関・意・態】</li> </ul>
	2	2. 学習課題を設定して、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城堀川は誰がつくったのだろうか。</li> <li>・城堀川をつくるときには、どのような工夫や苦労があったのだろうか。</li> <li>・城堀川はいつ頃つくられたのだろうか。</li> <li>・城堀川ができたことで人々の生活はどのように良くなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③城堀川についての疑問や問いを付箋に書き出したり、整理したりして学習課題を立てる。(本時)</li> <li>・ブレンストーミング法を用いて、児童それぞれの疑問や問いを書き出し、班で共有したり整理したりする。</li> <li>・班で整理したものを学級全体で共有することで、学習課題や調べることのテーマをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城堀川に関して<u>前時までの学習を踏まえて、自分から進んで</u>課題やテーマとなりそうな疑問や問いから学習課</li> </ul>



	町の学習から 真田の学習へ	のだろうか。 ・学習課題やテーマの解決には 色々な方法が考えられそうだ。 ・自分の学習課題やテーマの解決 にはどの方法を使えばいいのだ らうか。	<p>前時にもった疑問のいくつかを教師が紹介すること で、付箋に疑問を書きやすくする支援を行う。</p> <p>④自分の調べたいテーマを決定させ、問題解決 の方法や手だてについて同じテーマの児童 で話し合う。</p> <p>・問題解決の手だてを話し合う。</p> <p><b>教師が本の紹介やインタビューの方法について簡 単に説明することで、考え方に広がりができるよう に支援をする。</b></p> <p>・問題解決のための手だてについて、同じテーマの 児童で話し合いをさせる。</p> <p><b>問題解決の方法の長短を説明することで、自分達 の手立てにふさわしいものを考えることができる よう支援を行う。</b></p> <p>4つのグループに分けて学習をすすめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 城堀川の歴史について学習するチーム</li> <li>○ 城堀川を作った人物を学習するチーム</li> <li>○ 城堀川の壁面について学習するチーム</li> <li>○ 城堀川の名前について学習するチーム</li> </ul> </div>	題を設定し、学 習計画を立て ることができ る。 【関・意・態】	
あ つ め る	10	3. 城堀川につ いての調べ学習 および現地見学 をする。 ○くらしと水（社会） ○見学したことを報 告しよう（国語）	<p>（括弧内の数字は配当時間）</p> <p>○地図や写真を見て気付いたことや分かった ことをまとめる。 (1)</p> <p>○城堀川を見学して、水の流れる様子や蛇行 して沼田城（現、沼田公園）まで続いている ことを知る。 (3)</p> <p>○城堀川について詳しい人の話を聞いたり、 質問をしたりする。 (4)</p> <p>講師：沼田市教育委員会社会教育課課長 高山正 氏 ※事前に質問事項や話の内容の打ち合わせをする。 ※お礼状の書き方について、国語科の学習を振り返 りながら指導を行う。</p> <p>○文献を調べる。 (1)</p> <p>・「まんが沼田の歴史」や「真田氏時代の沼田城下 町 文化財散策ガイド」などの資料を活用する。</p> <p>○教室にコンピュータを設置して、班ごとに WEBサイトの情報を調べる。 (1)</p> <p><b>毎時間の学習で分かったことをワークシートに書 かせたり、全体で共有したりすることで、学習の まとめと振り返りの時間を大切にしてい</b> <b>く。集めた資料を整理して保管しておくことで、まと める段階で児童が活動しやすくする。</b></p>	<p>・学習課題を追 究するために 適した資料を 選び、資料の抽 出をすること ができる。【技】</p> <p>・城堀川に関す る特徴や歴史 的な経緯を資 料や多くの情 報を使いなが ら理解してい る。【知・理】</p>	
え ら ぶ	3	4. FM OZE で、 城堀川と真田氏 について紹介す るための原稿を 作ろう。 ○要約（国語） ○すじ道を立てて書 く（国語） ○沼田市の発展につ くした人々（社会）	<p>・城堀川の素晴らしさが伝えた い。</p> <p>・これからも城堀川を大切にしま らいたい。</p> <p>・城堀川を整備した真田氏の工夫 や苦勞を知ってもらいたい。</p> <p>・城堀川を他の地域の人に伝える にはどうすればいいのだろうか。</p>	<p>○資料の整理をして、FM OZE で発信する台 本の作成を班ごとに行う。 (3)</p> <p>・テーマごとに分かったことを発表しあい、台本の 作成を行う。</p> <p><b>取材したことや調べたことを全てまとめた台本に するのではなく、整理して聞きやすい台本にする よう支援を行う。</b></p> <p>※児童出演時の個人情報保護について、保護者から 承諾書もらう。</p>	<p>・学習課題を解 決するために 必要な情報を 自ら考えて見 つけ、整理する ことができる。 【技】</p>
い	3	5. 資料をまと めて発信する。 ○み力的な人物を紹 介しよう（国語） ○見学したことを報 告しよう（国語）  まとめたこと を発信する	<p>・城堀川をこれからも大切にしま らえるように紹介をしたい。</p> <p>・真田氏の苦勞や工夫を沼田の人 たちにも知ってもらいたい。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・城堀川を大切にしなければなら ない。</p> <p>・真田信之という人物や業績をも っともっと知ってもらうため にはどうしたら良いだろうか。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・沼田には、他に素晴らしい人が</p>	<p>（括弧内の数字は配当時間）</p> <p>○放送の練習と収録 (3)</p> <p>①学習をまとめる。</p> <p>・授業時間や見学時の写真や資料を見て、学習を振 り返る。</p> <p>・事前アンケートと同じアンケートを実施する。</p>	<p>・学習課題に合 わせた表現を 考えてまとめ ることができ る。 【思・判・表】</p>

		いるから調べたい。 ・沼田には、大切に守っていくものがたくさんある。 ・沼田の良さを多くの人に教えたい。	
他教科との関連	国語：「要約」、「すじ道を立てて書く」、「み力的な人物を紹介しよう」、「見学したことを報告しよう」 社会：「くらしと水」、「沼田市の発展につくした人々」		
備考 行事との関連・教材・外部講師など	・講話（沼田市教育委員会 社会教育課 課長 高山正氏） ・FM OZE の番組収録 ・川田小学校の池の取水口の見学 ・城堀川の見学 ・音読発表会での全校児童に向けた発表		

## 7 単元の過程

単元の学習は、「IV－1－（3）基本的な指導過程」に示された4つの過程（つかむ、あつめる、えらぶ、発信する）を踏まえて以下の通り設定し、実施する。

### ○ つかむ

児童が学習課題を設定するために必要な学習を行う。1時目では、「川田小学校の池の水はどこからきているのだろう」という学習のめあてを設定し見学する。具体的には、水の運ばれてくる様子や水事情について考えさせる。2時目では、視点を沼田台地に移し、沼田市内の川（利根川・片品川・城堀川）や水事情について考えさせる。この時、水道や自動車のない昔の暮らしを考えさせ、疑問や問いをもた

せることを学習のめあてとする。これをもとに学習課題の設定やテーマの決定をしていく。

### ○ あつめる

**町の学習から真田の学習へ**

学習課題やテーマの解決・調べ学習を行う。具体的な活動として城堀川についての調べ学習や現地見学を通して、様々な資料や写真を収集する。また、文献やWEBサイトも適宜使用して問題解決的な学習による知識の深化を図る。外部講師として、高山正氏に講話を依頼したり、質問に答えていただいたりすることで、理解を深める。この学習活動を通じて、**町の学習から真田の学習へと子ども達の意識を移行**していく。

### ○ えらぶ

「あつめる」の場面で収集した資料から単元のまとめを行うために必要な資料を精選する。この時、FM OZE で発信するための台本作りを通して、取材した内容や文献、見学での写真を整理することで、必要な資料を見つける。短い時間で紹介ができるように文章の要約などもしておくことが必要である。

### ○ 発信する

**まとめたことを発信する**

**FM OZEを媒介として学習したことを沼田市全体へ発信していく**学習や活動を行う。学校内では、音読朝礼で全校児童へ向けて発表する。FM OZE と音読朝礼を通じて、自信をもって町と真田の学習成果を発信できるよう支援を行い、沼田への誇りと愛着を形成する。

## 8 本時の学習

授業の視点

**ブレインストーミング法による考えを広げる活動は、子どもたちからたくさんの考えを引き出し、町の学習から真田の学習へと移行する場面に効果的であったか。**

### (1) ねらい

ブレインストーミング法を用いて城堀川についての疑問や問いを出し、学習課題をもつことができる。

## (2) 準備

教師：ワークシート、付箋紙、沼田台地の航空写真、前時の黒板の写真、城堀川の写真

児童：前時までのワークシート、筆記用具

## (3) 展開

過程	主な学習活動	時間(分)	指導上の留意点	評価項目 【方法】
つかむ	<b>1. 復習</b> ・前時の学習の振り返り	5	・前時に扱った「昔の人はどのようにして水を運んできたのだろう」を振り返り、出てきた疑問を紹介する。	
	<b>2. 本時の学習のめあてを示す</b>	3		
	<b>本時のめあて</b> 城堀川についての疑問や問いを書き出して、調べ学習のテーマをつくろう。			
ひろげる	<b>3. 本時の学習の流れを確認する</b> ・児童と一緒に時間の配分や活動の内容を確認する。		・本時の学習の流れを黒板に示し、本時の学習活動を確認する。 ・時間配分や個人・グループ活動の学習の流れを具体的に示す。	
	<b>4. 個人で疑問や問いを更に書き出す</b> ・前時の疑問や問いの他にも自分で調べたいことや興味のあることなどを付箋紙に書き出す。	5	・前時にもった疑問のいくつかを教師が紹介することで、付箋紙に疑問や問いを書きやすくなるよう支援を行う。 ・城堀川の写真を提示する。	
ひろげる	<b>5. グループでブレインストーミングを行い、テーマとなりそうな疑問や問いを広げる</b> ・3の場面で考えた疑問や問いをグループ内で発表しあい、考えを共有したり、広げたりする。 ・疑問や問いを付箋に書いておく。	15	A：前時までの疑問や問いに、グループの意見を加えて、更に疑問や問いを広げるだけでなく、グループ活動を行うことで新たな視点からの疑問や問いを出すことができるように指導・支援を行う。 B：友だちの意見を聞きながら新たな意見を付箋紙に自分から進んで書くことができるよう指導・支援を行う。 C：友だちの違う意見を聞きながら付箋紙に疑問や問いを書くことができるように指導・支援を行う。	・城堀川に関して前時までの学習を踏まえて、自分から進んで疑問や問いを付箋紙に書き学習課題をもつことができる。 【関・意・態】
	<b>6. グループごとに疑問や問いをまとめる</b> ・KJ法を用いて、グループで出た疑問や問いをまとめていく	7	・同じ疑問や問いをまとめることで、数種類の疑問群を作る。	
まとめる	<b>7. 学級で疑問や問いを共有して、学習課題や調べることのテーマをつくる</b> ・各グループから出された疑問を板書し、学習課題やテーマを絞る。	10	・全てのグループに発表をさせながら意見を出させる。 ・同じ意見も発表させることで、複数のグループで同じ疑問をもっていることを紹介する。	
	<b>8. 学習をまとめる</b> ・本時の学習をまとめる。 ・板書された学習課題やテーマに基づき、次時にグループを作り、学習を進めていくことを伝える。		・授業冒頭で示した学習の流れを振り返りながら、本時の学習をまとめる。	

## (4) 本時のまとめ

### つかむ場面において

- ・前時の学習の振り返りとして、昔の沼田の人が水に苦労したのではないかとという予想と城堀川を整備する必要性について振り返りをした。
- ・実際に城堀川を見学してはいないことから、写真資料を多く準備し、素朴な疑問を多く出すことができるよう授業の準備を行った。
- ・学習課題をつかませる活動において、城堀川の写真を複数提示したり、城堀川と利根川との違いについて触れたりした。

### ひろげる場面において（ブレインストーミング法を用いた場面）

- ・児童の考えた疑問の内、大きく外れているもの以外は認めて、次の活動につなげた。
- ・ブレインストーミング法を用いる場面では、付箋紙に疑問を書きださせた。本時における児童の最も活発のある活動となっていた。
- ・真田の知識につながるような疑問を付箋紙に書いていた児童がいた（図1）。

## まとめる場面において

・KJ法を用いることで、学習課題の設定（町の学習から真田の学習）へつながる活動となった。

## ブレインストーミング法を用いた考えをひろげる場面の設定・工夫の実態

### ① 学習形態の工夫

個別学習として、城堀川についての疑問を3個程度付箋紙に書かせた。この付箋紙を4人程度の班で共有しながら、さらに新しい疑問をだすことができるようグループ学習を行った。

### ② 話をひろげる工夫

児童から多様な考え方を引き出すためにブレインストーミング法を用いた。一人一人の考えを多く出させるために、付箋紙に書く活動を設定した。一枚の付箋紙には、一つの疑問だけを書くように指導した。この活動に児童は興味を示して取り組むことができ、多くの疑問を付箋紙に書くことができた。児童は、付箋紙が増えることで考えが増えたり、広がったりすることが実感でき、グループ内での交流が自然なかたちで生じた。さらに、ブレインストーミング法を用いたことにより、真田に関連する疑問が表出した（図2）。



図1 ブレインストーミング法を用いた活動

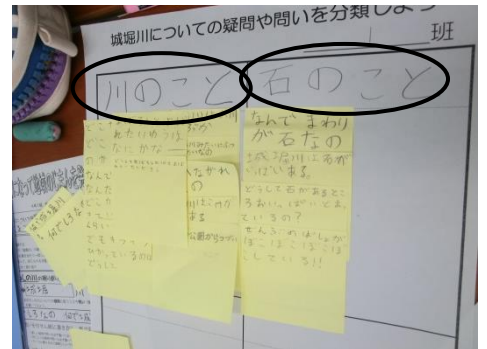


図2 KJ法によるまとめる場面

## 9 単元を通じた学習経過

### ○ つかむ

単元の第1時から第4時は身近な用水路に着目して学習を始めた。第1時では、水が下から上へ流れないことや水を引き込むことの難しさについて子ども達は考えることができた。第2時では、沼田台地の upper段に大きな川がないことを確認し、水をどのように運んだのかについて考えた。授業の終盤で担任が児童へ城堀川を紹介した。第3時（本時）で出た子ども達の疑問を、第4時で学習課題の設定とした。

### ○ あつめる

#### 町の学習から真田の学習へ

第5時から第13時まで、城堀川についての調べ学習や現地見学・高山正氏の講演を行った。城堀川についての調べ学習では、「まんが沼田の歴史（下）」を活用した。本資料は、授業以外にも学級内の朝読書の時間や休み時間にも児童が読むことができるよう23冊を教室に準備した。

城堀川の見学では、白沢町の佐馬之丞橋から沼田東中学校横・天桂寺・材木町のフレッセイの近くでの見学をした。特に児童は次の2点に注目した。1点目は、城堀川を流れる水の量についてである。これは、白沢用水と川場用水が沼田東中学校の横で合流の様子を見学して発見したことである。城堀川の水量を増やすことについて考えるきっかけとなった。2点目は、天桂寺横を流れる城堀川の壁面に400年前の石積みが残っている点である（図3）。当時の石積みを目の当たりにした児童は、「なぜ、石積みにしたのか」「石はどこから持ってきたのか」という疑問をもった。これらの他にも、天桂寺の駐車場近くの看板に書かれた「真田信吉」の文字に着目し、城堀川と真田氏との関わりについて興味をもった児童もいた。



図3 城堀川の見学

高山正氏には、城堀川と真田一族との関わりを中心に講演をしていただいた（図4）。この話の中で、真田氏の歴史や功績についてもお話いただいた。児童は、当時の様子を詳しく話していただいたことにより、真田氏に興味をもつことができた。

○ えらぶ

城堀川の見学や高山正氏の講演を中心に児童の学習テーマにあった資料やエピソードなどを整理した。この時点で、担任から児童へ FM OZE への出演が決まったことを伝え、どのような放送にするかを考えさせた。学習活動のほとんどを、台本を作る活動として展開した。どのような放送とするかを考える活動を設定したことにより、児童は自然と学習した中でも、特に伝えたいことを精選するようになった。

○ はっしんする **まとめたことを発信する**

児童の作成した台本を担任が整理し、読み合わせの練習をおこなった。その後、FM OZE のスタジオにて番組の収録をおこなった（図5）。また、校内の音読集会においても、この台本を全校児童の前で発表し、学習したことを広く発信することができた（図6）。



図4 高山正氏による講演会



図5 FM OZEでの収録



図6 音読朝礼の様子

10 児童の変容

(1) ふるさと沼田への学習意欲は高まったか

本実践前

の児童の実態把握をするために、沼田について大切にしたい場所や人に教えた沼田を質問紙形式で調査を行った。その結果は、表1の通りである。具体性

表1 事前アンケートの記述

沼田について、沼田以外の人に教えたいたことはありますか？
○夏になると御神輿をかつぐ
○ひとが多い
○自然がいっぱい
○人が楽しい・人が優しい（親切）
○食べ物が美味しい
○沼田は天狗がある
○色々な楽しい祭りがある・行事がたくさんある
○楽しい場所
○枝豆が有名
沼田について、大切にしたいと思う場所やもの、ことはありますか？
○外にごみを捨てない・汚いものをひろうこと
○自然や生き物など（を大切にすること）
○沼田祭り・夏祭り
○自分のまち
○吹割の滝
○沼田公園
○尾瀬

表2 事後アンケートの記述

沼田について、沼田以外の人に教えたいたことはありますか？（新規・増加分）
○沼田城のお堀
沼田について、大切にしたいと思う場所やもの、ことはありますか？
○城堀川
○沼田公園を大切にしたいです。それは、そのもつと前に沼田城があったからです。
沼田について、調べたいと思うことはありますか？
○城堀川がどこまで続いているか
○歴史をもっと調べてみたいです
○沼田出身で役に立った人を調べたいです
○沼田城や昔の沼田
○沼田城のことをもっと知りたいです。

がなく、大切にしたいと思うことについては、校区近くの沼田公園を挙げていることがせいぜいであると読み取ることができる。



しかし、本実践の後には、前項表2のような記述が増えている。特に、本単元で学習した「城堀川」という具体的な名称が挙げられている点や沼田公園について、沼田城跡であることを根拠にして答える児童が増えた。これは、城堀川の学習を通して、児童が真田に興味をもったことに依拠すると考えられる。さらに、本単元の学習により、沼田の歴史などについて興味を示した児童もいた。これは、児童にとって、真田信幸という歴史上の人物がとてもし心に残ったことが理由ではないか。そして、その魅力が表2の記述に表れていると考えられる。以上の結果から、町の学習から真田の学習へとつなげたことで、児童のふるさと沼田に対する学習意欲が大きく高まり、積極的に学習できたことが考えられる。

## (2) ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童を育成できたか

本実践における事前調査と事後調査における児童の量的変容は、図7のようになった。児童は全員が事前調査段階より沼田を「好き」・「とっても好き」と答えていたが、本実践終了後には、「とっても好き」と答えた児童が16%増えた。沼田のどのようなところが好きかと質問をすると、沼田まつり(74%)や自然(35%)、沼田公園(26%)を依然として多く挙げられている。しかし、沼田で自慢できることを質問すると、小松姫(4%)や沼田城(4%)という回答も見られるようになった。特に、沼田公園内で知ることのできる歴史的な人物(久米民之助)や城跡(沼田城跡)を挙げている児童もいる(図8・9)。

本単元を通して、児童は図10のような感想を書いている。即ち、多くの児童が、隣接している沼田の地域や沼田の偉人について簡単な理由をつけて言えるようになり、「目指す児童像」に沿った感想を書くことができるようになったことが分かる。探究的に町の学習から真田の学習へとつなぎ、発信する学習を通して、自信を持って沼田のことが語れるようになった。即ち、沼田に対して誇れる対象や愛着の対象となる魅力に気付いたと考えられる。

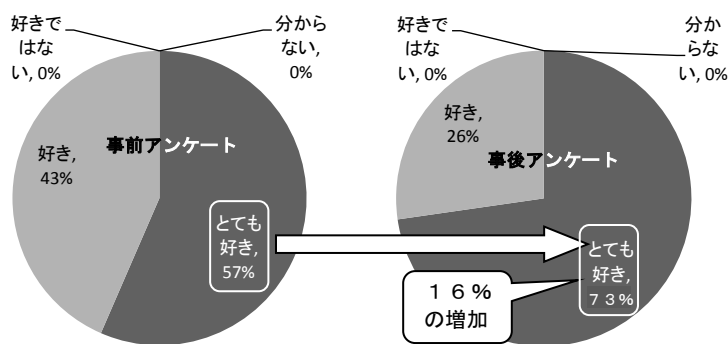


図7 アンケートによる児童の変容

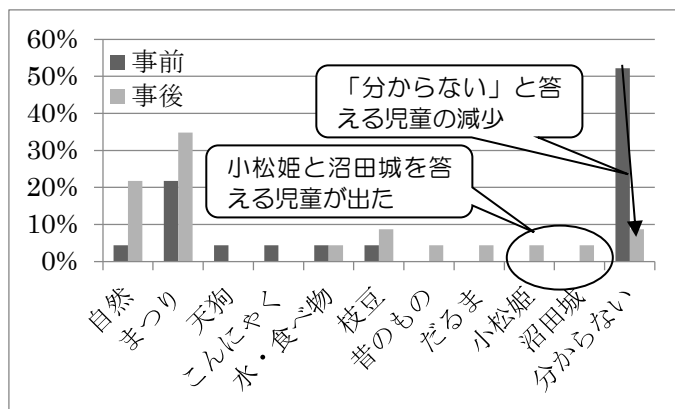


図8 質問3「沼田といえばなんですか？」

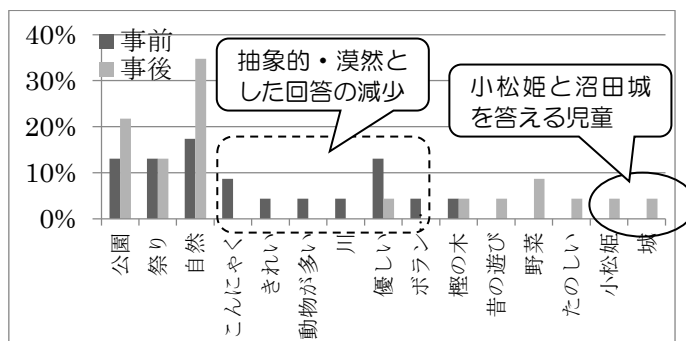


図9 質問4「沼田の自慢できることを教えてください」

- ・ 真田信幸も小松姫も優しいところがあることを知りました。
- ・ 城堀川を調べてたくさん川のことが分かったし、いろいろな発見もできたので面白かったです。
- ・ 城堀川のことをたくさん分かって嬉しかったです。しかも、FM OZE に出られて勉強したかいがあったんです。
- ・ 400年以上も前の川が今でも見られるということが楽しかったです。

図10 児童の感想

## 1 単元名「沼田博士になって地域の自慢を発信しよう」

### 2 本研究における単元の位置付け

本単元は、児童が地域の歴史と関わりをもち、郷土沼田に誇りと愛着をもつことができる児童の育成を意図したものである。児童は身近にある用水路に着目し、調べる過程で、戦国武将の真田信之をはじめとする沼田・真田氏の存在を発見し、沼田市に魅力を感じながら学習を進める。

本単元の実施にあたり、社会科では「郷土をひらく」という単元で長野県の大河原用水が扱われているが、副読本では扱われていない。その点を取り上げ、池田には用水があるのか、沼田はどうか、と考えることを足がかりとしていく。導入時に児童にとって身近な用水路に着目する。本校周辺には、真田氏によって引かれた2本の用水路(奈良用水・三字用水<sup>さんあざ</sup>)があり、それぞれが児童にとって登下校時に当り前に見る光景である。それがおよそ400年も前に作られたことを知ることで、用水路を整備した真田氏に対して関心をもてるようにする。また、用水路を400年の間管理し残してきた先人の苦労や努力についても触れ、社会科「沼田市の発展に尽くした人々」にもつなげたい。本単元の導入時には、奈良用水の取水口と三字用水(岡谷用水)の流れを見学し、池田地区にも用水があることを確かめる。用水と真田氏との関わりから、沼田市内の様子も見学し、城主としての真田氏への興味をもたせたい。疑問や課題を分かりそうなことから少しずつ解決し、また新たな課題を探することで問題解決的活動を発展的に繰り返していく。

沼田を治めた真田氏に関して、歴史的資料が乏しく、あったとしても4年生の児童には理解が難しい資料ばかりである。教師がプリントを用意したり、教師が抽出した資料について言葉を逐一調べたりすることで、資料から分かることを増やしたい。沼田の領主であった真田信之やその弟・幸村、父・昌幸については、歴史的に魅力あるエピソードもあり、資料も数多くあるので、真田信之については人物像に触れ、信之の妻・小松姫についてもエピソード(沼田城に昌幸と幸村の軍勢を入城させなかったこと)や墓所(沼田市正覚寺)について触れるなどしたい。また、用水を引くことの大変さや用水が現代まで使われ続けていることについてはゲストティーチャーを招いて話をしてもらおう。用水路の役割を知り、真田氏が沼田市の発展の礎を築いたことにつなげて探究的な学習をし、それをまとめて発信することで、ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童を育てたいと考える。

### 3 本研究に関する児童の実態(男子6名、女子6名、計12名)

児童の実態として、沼田について、沼田祭りや自然の豊かさを自慢に思っており、野菜の新鮮さや水のきれいさに気付いている児童もいた。アンケートを取ると、沼田が「とても好き」「好き」と答える児童が92%であった。ただ、「沼田を自慢してください」「よさは何ですか」といった項目については、自然の豊かさを挙げる児童が多く、分からないと答える児童も25%いた。つまり、好きという気持ちは漠然としており、具体的な言葉では挙げられない状況である。そこで、用水路を通しての町の学習を足がかりに真田の学習につなげて、探究的な学習をすることは、児童にとっての沼田の自慢を増やし、より具体的なものにしていく上で価値あることと考える。

### 4 単元の目標

探究的な三字・奈良用水を通しての町の学習から、真田氏の果たした役割や功績を知る学習へとつなぎ、それをまとめて発信することを通して、ふるさと沼田への誇りと愛着をもつことができる。

## 5 評価規準

IV-1-(1) 単元で育てようとする資質や能力及び態度を踏まえ、以下の通り設定する。

### 【関心・意欲・態度】

- ・身近な用水路に着目して、進んで課題を見付けようとしている。〔②-ウ、④-ア〕
- ・地域について誇りと愛着をもっている。〔②-ア〕

### 【思考・判断・表現】

- ・学習課題に合わせた表現ができるよう工夫し、まとめることができる。〔①-イ、③-ウ〕

### 【技能】

- ・学習課題を追究するために適した資料を選び、資料の抽出をすることができる。〔①-ア、③-ア〕
- ・学習課題を解決するために必要な情報を自ら考えて見付け、整理することができる。

〔①-イ、②-イ、③-イ〕

### 【知識・理解】

- ・用水路に関する特徴や歴史的な経緯を資料や多くの情報を使いながら理解している。

〔④-イ、④-ウ〕

## 6 単元計画（全20時間予定、本時はその8時間目）

過程	学習活動	児童の意識の流れ	時間(合計)	支援および留意点	評価
つかむ	1 県内各市の地図を見て、寺のあるところから、沼田市が城下町であることを見付ける。沼田に城があったこと、その城のあった400年前と同じ時代に作られたものがあることを知り、見学に行くことを決める。 めあて：学習の見通しをもつ。	・寺が集まっている。 ・城下町なんだ。 ・どうして寺を集めているんだろう。 ・同じ時代のものを見たい。	1 (1 / 20)	・単元の振り返りで使用するため、沼田の良さ・自慢を模造紙に書き出す。 ・地図を見比べ、違いを明らかにする。 ・沼田市が城下町であることに気付く。	○身近な用水路に着目して、 <u>進んで</u> 課題を見付けようとしている。 (観察・ノート)
	2 400年前から残っている用水をたどる。 めあて：用水を見学して疑問をメモしよう。	・人が作ったから用水だ。 ・すごい距離を掘って作ったんだな。 ・川よりもかなり高いところに用水があるな。 ・だれが作ったんだろう。 ・400年も前からあるなんてすごい。	2 (2, 3 / 20)	・奈良用水の取水口と、トンネル坂～池田神社の用水を歩いてみる。大変な距離の工事をしたことを考えながら歩く。(社会科と関連) ・川との違いを探しながら、社会科で学習した用水が池田地区にもあることを知る。 ・地図で発知川の場所を確かめながら、実際に用水の傍を歩く。 ・疑問や気付いたことなどメモしながら歩く。メモは箇条書きにし、番号を振っていく。	○身近な用水路に着目して、 <u>進んで</u> 課題を見付けようとしている。 (観察・ノート)
	3 疑問を出し合い、疑問について予想する。どう調べて解決していくか考える。 めあて：疑問を出し合って解決の見通しをもとう。	・城下町だから殿様が作ったんじゃないか。 ・用水を作るのは大変だったんじゃないかな。 ・詳しい人に話を聞きたい。	1 (4 / 20)	・グループで作業する。 ・前時に書いたメモを身ながら疑問を付箋紙に書く。付箋紙法(KJ法)を用いて、用水を見たときの疑問や気付きを類型化する。(模造紙に張り付けていく) ・疑問に対して予想をし、考えた理由も言えるようにする。 ・調べたことを誰に伝えたいか考える。(相手意識：沼田市の人・地域の人) ・次時に解決できそうな疑問について検討する。	○身近な用水路に関して、前時までを考慮して、 <u>進んで</u> 課題を設定し学習計画を立てることができる。(観察・ノート)



あ つ め る	4 解決できそうな課題について調べる。 (1) 用水路について、地図上で色を塗りながら取水口からの流れを確かめる。 めあて: 用水の流れを知って課題を見付けよう。	・すごい距離を掘っている。 ・なんのためにこんなに長い距離を掘ったのかな。 ・今も使われているのかな。	1 (5 / 20)	・教師の準備した解決ツールとして、地図・漫画・石碑の文を示し、どれから調べていくか選ばせる。 ・地図の色塗りをして気付いたことや疑問を出し合う。 ・疑問については予想とその理由を考える。 ・用水路を使っている地域を予想する。	○身近な用水路に着目して、 <u>進んで課題</u> を見付けようとしている。(観察・ノート)
	5 用水を、だれがどのようにして何のために作ったのか調べる。 (1) 資料(石碑の文・漫画)をもとにだれが何のために作ったのか調べる。 めあて: 用水は誰が何のために作ったのか調べよう。	・真田という人が作った。 ・庶民が苦勞したんだ。 ・戦争のときもずっと作っていたんだ。 ・冬の工事大変だったろう。 ・今も使われているかもしれない。	2 (6、7 / 20)	・グループで調べる。  ・用水を作った人を調べる中で真田氏の存在に気付かせる。 ・女坂堰石碑の文章を、辞書を使いながら読み解く。 ・用水作りの苦勞について、他地域の用水について調べ類推する。(箱根用水の紙芝居を読み聞かせる。) ・漫画を使って疑問を解決していく。 ・ゲストティーチャーのカードを示す。 ○真田用水が流れる岡野谷にくわしいつ子先生 ○用水の作り方・流れ方にくわしいあきひろ先生 ○今の用水にくわしい大嶋先生	○ <u>学習課題を追究</u> するために <u>適した資料</u> を選び、資料の抽出をすることができる。(観察・発言)
<b>町の学習から真田の学習へ</b>					
	(2) ゲストティーチャーの話の聞いたり質問したりしながら、なぜ用水が今もあるのか、用水が今どう使われているのか調べる。 <ゲストティーチャー: 岡谷町・大嶋政美さん> めあて: 大嶋さんの話を聞いて、今も用水があるわけをさぐる。  (3) 今までの学習で分かったことを付箋紙に書く。付箋紙の中から選び、カードに書く。整理する中で出てきた疑問を出し合う。 めあて: 用水についての確かめをしよう、新たな疑問を見付けよう	・今も使われているんだ。 ・地域の人が管理をしているんだ。うちの人も参加しているかもしれない。 ・何か大変なことはあるのかな。 ・水争いはあったのかな。  ・ずっと管理して大変だった。 ・400年も残っているのは、池田の人が努力したからだ。 ・真田のことはまだ分からないな。	1 (8 / 20) <b>本時</b>  1 (9 / 20)	・現代までどのようにして残ってきたのか、池田の人々の苦勞について話を聞く。 ・解決したい疑問について、ゲストティーチャーに質問する。 ・話を聞いて分かったこと・驚いたことを発表する。  ・用水とは何か、について振り返る。用水のキーワードを調べる。 ・用水の名前、使っている地域、作った人、用水は誰でも自由に使えるものではないこと、今も大切に管理されていることを押さえる。 ・ゲストティーチャーのカードを示す。 ○真田にくわしい高山先生	○用水路に関する特徴や歴史的な経緯を資料や多くの情報を使いながら理解している。(観察・発言)  ○学習課題に合わせた表現ができるよう工夫しまとめることができる。(カード)
	6 用水を作った真田氏について調べる。 (1) 沼田市内の見学に行き、真田氏の築いた城下町について調べる。 <ゲストティーチャー: 高山正さん> めあて: 用水を作った真田氏に	・真田氏は沼田の町を戦に負けないようにつくろうとしたんだな。 ・よく探すと真	2 (10、11 / 20)	・沼田城趾(城の絵・小松姫のエピソード)、お馬出し通り(途中から狭くなっている、東京へつながる道)、城堀川(城の飲料水としての用水路)、天桂寺(真田氏の人物像)の見学をする。	○学習課題を解決するために必要な情報を自ら考えて見付け、整理することができる。(観察・ノ

	<p>ついて知ろう。</p> <p>(3) 分かったことを整理する。 めあて:今まで調べて驚いたこと・分かったことを付箋に書く。</p> <p>(3) ゲストティーチャーとして来てくれた先生にお礼の手紙を書く。 めあて:お礼の手紙を聞こう。</p>	<p>田氏の残したものがたくさんあるな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>池田の用水も沼田の殿様だった真田氏が作ったなんですごいな。</li> <li>真田氏ってどんな人だったんだろう。</li> </ul> <p>・400年も前から守られてきた用水があることに驚いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>沼田に有名な殿様がいたんだ。</li> <li>小松姫はかっこいいな。</li> </ul> <p>・いろいろ教えてもらってうれしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知らないことが多かった。</li> </ul>	2 (12、13/20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>真田氏が城下町を作り、沼田市の基盤を築いたことに気付く。</li> <li>真田氏の町作り(宿割)の一つが岡谷町であることを知る。</li> <li>写真やメモをとる。</li> <li>ゲストティーチャーに説明してもらったり、質問したりする。</li> <li>池田地区の用水も真田氏の歴史遺産であることを再認識する。</li> <li>まとめとして、気付いたことや疑問を出す。</li> </ul> <p>・今までの学習で分かったことを整理する。石碑、地図、漫画、ゲストティーチャーの話、沼田市の見学をしたことを整理し、その学習の中でそれぞれ分かったことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>付箋紙に分かったことを書き出す。</li> <li>資料や写真を見たり、第9時に作成したカードに付け足しをしたり、新たなカードを作成したりする。</li> </ul> <p>・国語科『いらい状とお礼状』と関連させ、手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大嶋先生、高山先生に手紙を書く。</li> <li>質問があれば書き加える。</li> </ul>	<p>ト)</p> <p>○学習課題を追究するために適した資料を選び、資料の抽出をすることができる。(観察・ノート)</p>
えらぶ	<p>7 今まで書いたカードに付け足しをする。 めあて:驚いたこと・分かったことをカードにまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こんなことが分かった。</li> <li>こんなことを知らせたい。</li> </ul>	2 (14、15/20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードに文章を書いたり写真を選んだり絵を描いたりしてまとめる。</li> <li>数行で要約して書けるよう指導する。</li> </ul>	○用水路に関する特徴や歴史的な経緯を資料や多くの情報を使いながら理解している。(カード)
	<p>8 カードの整理・分類をし、カードを貼り合わせて調べたことをまとめる。 めあて:カードを分かりやすく並べて調べたことをまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のカードもいいな。</li> <li>早く伝えたいな。</li> </ul>	1 (16/20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3人のグループで作業する。</li> <li>カードをもとに、出来事を時間軸で並べたり、マップとして空間軸で整理したりする。(分類・序列化・類推・関連付け・因果関係)</li> </ul>	○学習課題を追究するために適した資料を選び、資料の抽出をすることができる。(観察)
	<p>9 FMOZE の収録準備をする。ピラミッドチャートを使って、自分の考えや沼田の自慢を整理する。 めあて:自分の考えを整理して、録音の準備をしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この感想を言いたい。</li> <li>もっと気持ちを込めて読もう。</li> </ul>	1 (17/20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードをもとにピラミッドチャートを書く。</li> <li>事実を基に自分の考えをまとめながら、今までの学習を振り返る。</li> <li>グループを2班作り、音読劇の割り振りをする。</li> </ul>	○学習課題に合わせた表現ができるよう工夫し、まとめることができる。(観察・ノート)
	<p>10 沼田のよさや自慢したいことについてまとめる。収録の練習をする。 めあて:調べたことから沼田市で自慢できることは何か考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沼田にはこんな殿様や姫がいたんだよ。</li> <li>昔から用水を大切にしていたから、今も大切に使われているよ。</li> </ul>	1 (18/20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元を通して感じた沼田のよさや自慢したいことについて付箋紙に書き出し、KJ法で分類する。</li> <li>1時間目にまとめた「沼田の自慢」を書いた模造紙と比較し、増えたこと・深まったことを確かめる。</li> <li>音読劇の練習をする。</li> </ul>	○学習課題に合わせた表現ができるよう工夫し、まとめることができる。(観察・ノート)
発信	<p>11 学習したことを発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで調べて驚いたこと</li> </ul>			

する	<p>(1) FMOZE でラジオ番組「ふるさと沼田、もっと大好き！」の収録をする。(地域の人の人向け)</p> <p>(2) 今まで学習したことを振り返って、思い出に残ったことベスト3を選び、写真や文章でまとめる。(家の人の人向け)</p> <p>めあて: 学習したことを紹介しよう。</p>	<p>を知らせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知らない人に教えたい。</li> <li>・伝えた感想をもらったよ。</li> <li>・伝えるって楽しい。</li> </ul>	<p>1 (19/20)</p> <p>1 (20/20)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FMOZE で収録をする。</li> <li>・ゆっくり読むよう気を付ける。</li> <li>・単元を通して感じたことを発表する。</li> </ul>	<p>○地域について誇りと愛着をもっている。(観察・ノート)</p>
----	---	--	---	---	------------------------------------

まとめたことを発信する

## 7 単元の過程

単元の学習は、「IV-1-(3) 基本的な指導過程」に示された4つの過程(つかむ、あつめる、えらぶ、発信する)を踏まえて以下の通り設定し、実施する。

### ○つかむ

児童が学習課題を設定するために必要な学習を行う。沼田の自慢を考えたり、沼田市が城下町であったことをおさえたりしておく。特に、池田地区の用水路について見学し、それぞれの課題をもつ。

### ○あつめる

資料・情報を収集する場面である。その際、本や教師の用意するプリントだけでなく、現地見学やくわしい人に話を聞く等の体験をもとにして学習を進める。調べるごとに出てくる疑問について、再度資料を見たり取材をしたりして理解を深めていく。**地域の身近な素材を学習する過程で、沼田と関わる真田氏の存在に出会うようにする。**沼田についてもっと知りたいという意欲を高められるよう、子どもたちが真田氏を発見できるようにする。

町の学習から真田の学習へ

### ○えらぶ

「あつめる」の場面で収集した資料・情報から、単元のまとめを行うための資料を精選する場面である。取材して分かったこと・すごいと思ったこと・驚いたことについて、カードに写真や文章でまとめる。カードを取捨選択し、伝えたいことを中心にまとめる。この活動の終盤には、沼田の自慢は何か再び考え、発見を自慢に変換させる。

まとめたことを発信する

### ○はっしんする

単元のまとめとして、池田の用水や真田氏との関わりについて書いたカードの中から、地域の人や家の人に伝えたいことを選ぶ。それをもとに **FMOZE** で分かったことや調べた感想を発信したり、公開授業日に家の人に向けて学習の振り返りを発表したりして、児童の学習を広める活動をする。地域の人や家の人に、調べたことについて自信をもって発信することで、自分の言葉で自慢できるようにする。以上の活動を通して、ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童の育成につながると考える。

## 8 本時の学習

### 授業の視点

調べた過程を画用紙にまとめたりカードを書いたりして、ゲストティーチャーと交流したことは、用水を大切にしたいという思いをもったり、真田の存在に気付いたりして、もっと沼田や真田について調べたいという意欲をもつことにつながったか。

#### (1) ねらい

ゲストティーチャーの話聞き、先人の力で用水が守られてきたことや真田の存在に気づき、もっと沼田や真田について調べたいという意欲をもつことができたか。

#### (2) 準備

教師：疑問を書き出した画用紙（4班分）、カード、大嶋さんの資料（電子黒板）、色塗りした地図

児童：メモ用紙、筆記用具、お礼の言葉

(3) 展開

過程	主な学習活動	時間 (分)	指導上の留意点	評価項目【方法】
つかむ	1 今までの学習で出てきた疑問について確認する。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導として、話を聞く態度について確認しておく。</li> <li>・疑問を書き出した模造紙を見ながら確かめ、自分の疑問として話を聞けるようにする。</li> <li>・どのゲストティーチャーにどのような質問をするかあらかじめ考えておく。</li> <li>・ゲストティーチャー3名を紹介する。(大嶋政美先生・小林いつ子先生・高橋明弘先生)</li> </ul>	<p>・ゲストティーチャーの話を聞き、もっと沼田や真田について調べたいという意欲をもつことができたか。【観察・発言】</p>
<p>今の用水に詳しい人に話を聞いて、今も用水が残っているわけをさぐろう。</p>				
ひろげる	2 岡谷町の大嶋政美さんにお話を聞く。	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを取りながら聞く。</li> <li>・用水が今まで残ってきた理由や、今の管理の仕方について話していただく。(資料1参照)</li> <li>・どのゲストティーチャーに質問するか言わせてから質問するようにする。</li> <li>・立体模型や地図を見ながら説明していただく。</li> </ul>	
	3 全体で、自分たちの準備した質問や、話を聞いてもっと知りたいことについて質問する。	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想される質問&gt;</li> <li>・水は無料ですか。</li> <li>・今も用水は使っていますか。</li> <li>・米作りのほかにも使われていますか。</li> <li>・どこに住む人が使っていますか。</li> <li>・管理で大変なことは何ですか。</li> <li>・壊れたときはどうしているのですか。</li> <li>・他にはどんな水争いがありましたか。</li> <li>・水の量は違うのですか。</li> </ul>	
	4 質問したり話を聞いたりして驚いたことや分かったことをカードに書く。	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決した課題にはシールを貼る。</li> <li>・カードを書く上でもっと正確に聞いておきたいことは質問に行く。</li> </ul>	
まとめる	5 話を聞いて分かったことを発表する。 最後に感想・お礼の言葉を伝え、終わりにする。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指名して、カードを見せながら発表させる。</li> <li>・振り返り発問「どうして今も残っているのかな」</li> <li>➡昔から大切にされてきた。今も大切に管理している。</li> <li>人が生きるためには必要なのだ。等</li> </ul>	

(4) 本時のまとめ

<成果>

○用水に詳しい先生方に直接質問したり知らなかった話を聞いたりして交流したことで、町の学習に対する児童の満足感につながった。

○本時の最後に、課題について再確認した。用水を作った真田がどのような人なのか等についてはまだ分からないので、次時に「真田にくわしい高山先生」と沼田の見学に行く、と予告したことで、用水の学習から真田の学習へとつなぐことができた。

○本時を行うことで、用水に対する疑問が解決し、まだ分からない疑問が真田氏についてのものであることが明らかとなった。これが真田の学習（次時）への意欲付けとなった。

<課題>

- 質問をする際、グループごとにゲストティーチャーに聞きに行く、という活動を取り入れると解決できる疑問の数が違ったのではないか。
- 打ち合わせはしたが、ゲストティーチャーの情報が多岐にわたり時間がオーバーした。打ち合わせでは、この話からはこんな児童の姿を想像する、というイメージをもったうえで、話をしてもらいたい内容を具体的に伝えることが必要である。

## 9 単元を通じた学習経過

○つかむ

まず、沼田市のよさや自慢を出し合った（図1）。まとめると4つに分類され、たくさん自慢がありそうだったが意外と少ないということに児童は驚いた様子であった（図2）。次に、県内



図1 自慢を出し合う



図2 自慢を分類した

各市の地図を見比べ、寺の多さが違うこと、寺がまとまっているかどうかによって違うことに気付いた。このような活動を通して、沼田のことを知っているようで知らないこと、昔の姿が今の町にも影響があることに気付くことができた。社会では、用水の学習をした後、「群馬や沼田にはあるのか？」という疑問も出てきていたので、最後に紹介し、次時への意欲付けとした。

沼田の自慢は？  
用水はあるのか



図3 用水見学 約5 km歩いた

用水見学では、真田氏の引いた奈良用水と三字用水を見学した。<表1>のような点に気付けるように、見学の際はメモを取り、約5 kmの距離を歩いた（図3）。歩くことで、<表2>のような疑問をもつことができた。

- <表1> 見学して気づいたこと
- ・発知川から取水していること。
  - ・舗装されていない道や山のすぐ近くを流れていること。
  - ・取水口で水量を調節していること。
  - ・取水口から、どこへ向かって流れているか。
  - ・トンネル坂の土管の中を用水が流れていること。
  - ・平らなところでも水の勢いがあり、流れが速いこと。
  - ・用水の歴史が書かれた石碑があること。
  - ・岡谷と戸神・町田への分岐点があること。
  - ・用水が山肌を通っていること。
  - ・用水と川の高低差があること。

次時にはKJ法を用いて疑問を出し合い、整理した。自分の疑問を付箋紙に書き起こし、それを生活班で集め、分類し、図4のように画用紙に整理していった。

画用紙には、予想を書き込み、調べる方法についての検討もし、書き込んだ。班ごとに疑問を紹介し合い、<表3>のよう

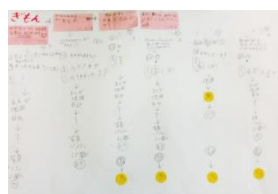


図4 班ごとに画用紙に整理した自分の疑問が増えた

にクラス全体で課題を整理した。

○あつめる

町の学習から真田の学習へ

自分たちの疑問を解決できそうな情報から調べていく段階である。

まず、簡単に解決できそうなことから調べた。解決アイテムとして「漫画・地図・石碑全文」を提示し、どこから調べたいか選ばせた。各資料が

- <表2> 用水見学後の疑問
- ・どうやって作ったのか。
  - ・だれが作ったのか。
  - ・平らでも速いのはどうしてか。
  - ・なんでもっと道のいいところに作らないのか。
  - ・どうして用水が分かれているのか。
  - ・なぜ用水が残っているのかな。

- <表3> クラスで出し合った課題
- ・用水はだれが何のために作ったのか。
  - ・なぜ400年前の用水が残っているのか。
  - ・用水はどこが終点か、どこが始まりか。
  - ・昔の人は用水のことを知っているのだろうか。
  - ・なぜもっと安全な道のいいところに作らなかったか。
  - ・昭和でも作っていたのか。

課題・疑問  
づくり

分かりそうなこと  
から解決しよう



らは<表4>のような情報を得た。三つの解決アイテムからは、分かることが重なり合っている。しか

<表4> 解決アイテム

**地図から**：学区の大きな地図を広げ、まず自宅に色を塗った。その後発知川、用水と分かるところまで色塗りをした。大変な距離を通っていること、用水は再び川に戻ることを知ることができた。(図5)

**漫画から**：『漫画沼田の歴史下』p9～p41を読ませ、分かったことをメモした。真田という人が作ったこと、約400年前に作られたこと、沼田に殿様がいたこと、用水の名前、他の地域にも用水があることを知ることができた。

**石碑から**：読み合い、分からない言葉は辞書で調べ、何年間作り続けたか計算をするなどした。用水がいつ作られ、どのように守られてきたのかを知ることができた。



図5 地図に色塗り

まだ分からない  
課題・疑問

し、児童にとってはスパイラル的に何度も同じキーワードが出てくることで、理解がより深まった。

次にゲストティーチャーを招いて再び情報を集める段階である。三つの解決アイテムを経ても分からなかったことを、ゲストティーチャーへの質問<表5>につなげた。地域の用水を管理する三字用水組合に所属していた大嶋政美さんを「今の用水に詳しい先生」として紹介し、用水

<表5>用水に詳しい先生への質問

- ・用水の中に段差があって流れるのか。
- ・なぜ400年前の用水を残しているのか。
- ・用水の道が分かれているのはどうしてか
- ・どうして用水はこんなにいっぱいあるのだろう。
- ・なぜ用水は高いところにあるのだろう。
- ・なぜ坂でも水が登っていくのか。
- ・用水の終点はどこか。
- ・家族も用水を作ったのか。

の管理を中心に話していただいた。また、本校の教諭二名にもゲストティーチャーとして来ていただいた(図6)。幼少期に岡谷用水の近くで育った小林いつ子教諭は「岡谷用水が流れる岡野谷に詳しい先生」、理科担当の高橋明弘教諭は「用水の作り方・流れ方に詳しい先生」、として紹介した。小林教諭は、用水を



図6 ゲストティーチャーへの質問



図7 立体模型

日常生活に使ったことや、遊び場だったことを話し、高橋教諭は(図7)のように発泡スチロールで土地の立体模型等を作りそれを使って説明した。用水と人々の生活や用水の高低差について児童の理解が深まった。用水について分かったことを付箋紙に書き、画

用水の  
まとめ

用紙に整理し、特に自分の心に残ったことはカードに書いた。以上の活動を通して、児童は<表6>のような内容について発見したり理解をしたりした。課題解決の状況を振り返る中で、真田氏というキーワードも出てきたことを振り返り、「真田に詳しい先生」と見学をしよう、ということを知らせた。

<表6>用水について分かったこと

- ・400年も用水はせきざらいをしてきた。土砂や草かりをした。
- ・用水が残りに残っている理由は、年に二回のせきざらいです。つまった草、どろなどを整理します。電気製品は使えません。そのためフォーク、スコップを使っています。
- ・地区ごとの水の量は決まっています。どこの地区も田植えは同じなので水が少ないという水争いが多かったのです。水を自分たちの方にしないように、見回りがあつたのです。
- ・トンネル坂の用水は322年かけて作られた。親が死んだらその子どもが用水作りを継ぐのかなと思った。

真田の学習では、高山正氏に説明していただきながら(図8)、沼田城跡、大手門からお馬出し通り、城堀川、天桂寺の石垣と信吉の墓を見学し、真田氏の人柄や町づくりについて学んだことで<表7>の理解につながった。

<表7>真田氏について分かったこと

- ・敵と味方に分かれた家族。自分だったらそんなことできないと思います。家族を戦でこらすなどでも、家の名前を残すという意味があったことに気がきました。
- ・用水を作れと命令したのは真田で、でも実際やったのは農民である。でも真田氏が命令していないとぼくたちはいない。
- ・本当は5層だけど、真田はうそをつきました。「私のお城は4層だ！」なせうそをついたかという、「あんなに大きい城を作りやがって、最初につぶしてやる！」と相手につぶされないためにうそをついたのです。
- ・いっきに攻められないよう、道はかくかく作られている。

○えらぶ

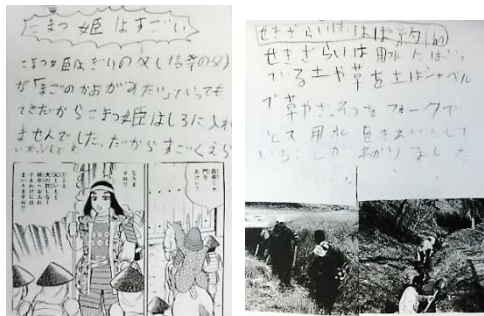


図8 沼田市内見学

真田氏の  
まとめ

どの学習でどんなことが分かったか流れを全体で押さえた。その後、今までに書いた付箋紙、カード、メモ、資料、班で整理した画用紙を見ながら、驚いたこと・知らせたいことという視点で、班で相談しながら、(図9)のよ

うにカードを書いた。本来、そのカードを、用水のことに真田氏のことを各自で分類・整理したかったが、FMOZEの収録も迫ってきたため、書くだけとなってしまった。自分の書いたカードを見ながら、ピラミッドチャートを用いて、分かったことを沼田の



分かったこと

図9 児童の書いたカード

自慢できることに変換する活動をした。資料や写真を見返しながら何度も付箋紙やカードを書いたこと、どのようなことに詳しいゲストティーチャーか思い出すこと、自分で撮った写真を見直すことを繰り返した結果、資料を見なくてもエピソードを思い出せるなど、知識が定着した。

○はっしんする

FMOZEの収録の準備として、沼田の自慢や学習した感想を書いた。カードやピラミッドチャートを見てと伝えたが、見なくても整理した経験からすらすらと書ける児童がほとんどであった。FMOZEでは調べた内容について地域の人を対象に<表8>のような沼田の自慢を中心に収録・放送したので(図10)、公開授業日には、「家の人に紹介したいことベスト3」を写真とともに選び、学習のまとめとした。用水のことや真田氏のこと、取材された

伝えたいこと



図10 FMOZE収録の様子

<表8>FMOZEでの発表

- ・小松姫がこんな思いで二人を(城に)入れないということがすごかったです。
- ・農民たちが用水を作ったのがすごかったです。田をやらないとなのに用水を作るなんてすごいです。
- ・沼田の自慢は、真田という有名な殿様がいたこと、沼田城があることです。有名な武士信幸がいたから沼田にすごい歴史がありました。城の瓦も発掘されました。
- ・勉強して用水を手作業で長く掘っていたのがすごかったです。
- ・ふだん何気なく住んでいる沼田ですがこんな歴史があるなんてびっくりしました。

<表9>家の人に紹介したいこと

- ・これは用水の水を調節するためのものです。流す水の量も決まっています。なぜかという昔米はお金でした。米を作るには水が必要でした。水が少ないと夜に水を取られることもありました。
- ・これは用水見学に行き、発知川と奈良用水の写真です。山の方からやっぱり流れていくんだとあらためて分かりました。
- ・沼田公園にあった沼田城の模型がけっこう大きかったので、実際の物がどれだけ大きいか少し分かりました。すごかったのは石垣です。沼田カルタにも、「いしがきに歴史をしのぶ 沼田城」とあり、石垣に歴史があることが分かります。
- ・沼田城の模型を見ました。大きな城を徳川はこわしてしまいました。その後は真田はどこで暮らしていたかが知りたいです。実際のお城を見たいです。模型はすごかったです。



図11 発表の様子

まとめたことを発信する

自慢が増えた人に伝えられた

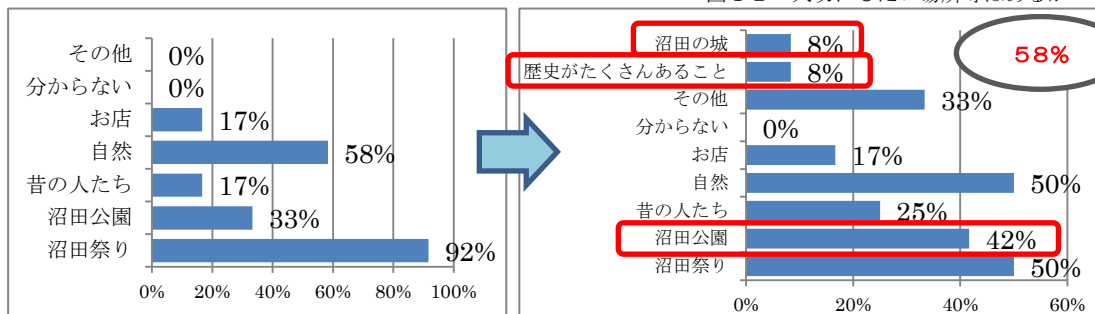
ことやラジオ収録のことなど、<表9>のように思い思いのまとめとなった。

発表を聞く子どもたちも、友達が何を選んだか興味津々な様子で聞いていた(図11)。

図12 大切にしたい場所等はあるか

## 10 児童の変容

(1) ふるさと沼田への学習意欲は高まったか「大切に



たい場所等はあるか（どんなところが好きか）」（図12）という5月実施のアンケートの問いに、沼田公園を挙げる児童は33%であったが、実践後は「沼田公園、沼田の城跡、歴史がたくさんあること」と答える児童が合計で58%に増えた。また、「沼田以外の人に教えたいことはあるか（自慢できることは何か）」（図

13）という問いに対しては、実践前は沼田祭りや自然を挙げる児童が多く、「分からない」と答える児童が25%いた。実践後には「分

からない」という児童はいなくなり、「沼田公園・真田がいたこと・沼田城・用水」という図14のような具体的な

言葉を挙げた児童が83%に上った。以上から、町の学習へとつなげたことで、児童のふるさと沼田に対する学習意欲が

大きく高まったことが分かる。

（2）ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童を育成できたか

「沼田は好きか」という問いに対して「分からない」と答えていた児童が「好き」に変容した。（図14、15）また、沼田の偉人やゆかりのある歴史的人物を含め、図16のように具体的なエピソードを含めた記述が増えた。また、

感想においても＜表10＞のような記述が見られた。

＜表10＞全体の感想  
 ・今までの勉強で、用水から真田氏までつながったことが知れてよかったです。発表ははずかしかったけどうまくいきました。またやってみたいなと思いました。  
 ・はじめは用水のことだったけど真田氏とも関係をしていて、ついには沼田じゅうの人に教えられた達成した感じがあります。  
 ・楽しかったしびっくりしたことがありました。まだまだまだまだ総合で用水をまだやりたいです。  
 ・今まで勉強したことが今発表できてうれしかったです。今までのことがこれからの沼田を知ることにつながりました。  
 ・今まで用水のことを調べてきて、やっとついに沼田博士になりました。400年前の用水は今も残ってきて役立っているのが大切に守っていきたいです。

以上のことから、探究的な町と真田の学習を通して、今まで知らなかった沼田のことを数多く発見し、それを自分の言葉でとらえ発信できたことで、沼田への誇りと愛着に確実につながっていると感じた。

図13 沼田以外の人に教えたいことはあるか

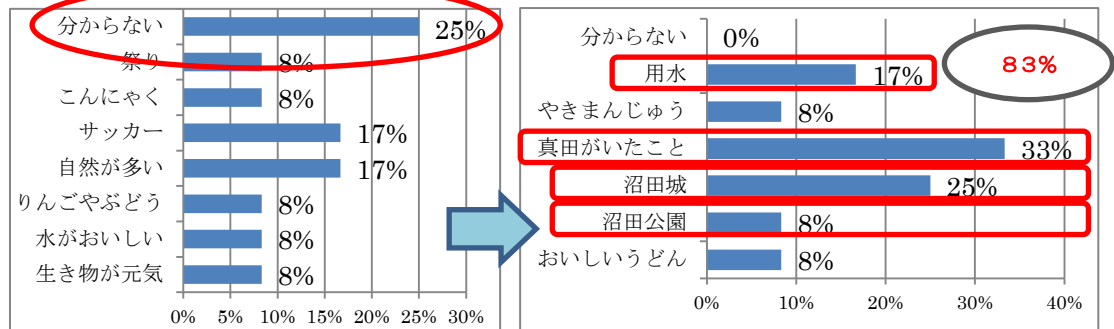


図14 沼田の自慢できる場所はどこか

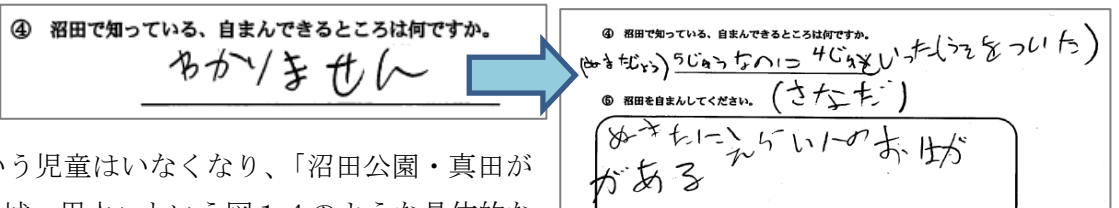


図15 沼田は好きか

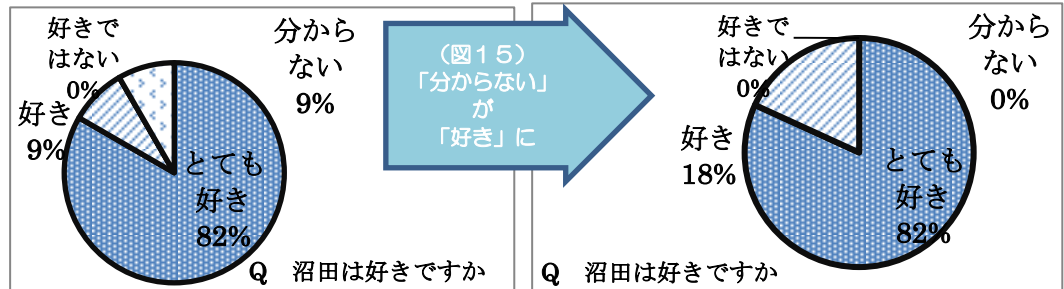
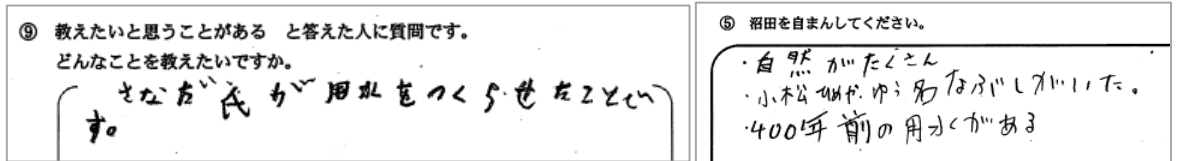


図16 沼田の偉人やゆかりのある歴史的人物についての記述





6 単元計画（全20時間予定、本時はその8時間目）

過程	時間	学習活動	児童の意識の流れ	支援および留意点
つ か む	4	○写真を見て「わかったこと、気づいたこと、思ったこと」をできるだけたくさん、箇条書きで書き、発表する。 ・一斉授業を受ける中で、沼田市に課題をもつ。	・お寺が多いなあ。なんでだろうなあ。 ・お寺が多い市と少ない市の違いは何だろう。 ・なぜ、道路のはばが半分になっているんだろうなあ。 ・なぜまっすぐな道にできなかったんだろうなあ。 ・なぜ、五層の沼田城なのに、4層で描かれているのがあるのかなあ。	①社会の町巡りで気づいたことを発表し合う。お寺が多かったことを思い出させ、お寺探しをさせる。 伊勢崎市→桐生市→沼田市→前橋市 「太田市、渋川市」「高崎市、館林市」なども見せる。 その後、わかったこと、気づいたこと、思ったことなどを書かせる。 ②冠木門から見たお馬だし通りの写真を提示する。この写真から、多くのことを読み取らせる。主となるところは、道の広さが突然半分になるところ。なぜか、その理由まで考えさせたい。 ③本町通りと市役所通りの間の通り、カフェロジェ交差点の写真を提示する。この写真から、南北の通りがカギ型に曲がっている所を読み取る。なぜか、その理由まで考えさせたい。 ④沼田城の昔の絵図を3枚提示する。この写真から、沼田城が五層で描かれているものと、四層で描かれているものがあることを読み取る。なぜか、その理由まで考えさせたい。 <b>（社会科「学校のまわりのようす」と関連）</b>
	1	○課題を設定する。 ・授業の中で出た課題から一つを選ぶ。	・沼田の町のこと、もっと深く知りたいなあ。	○今までのノートを見て、その中で書いてきた疑問の中から、一番知りたいなあと思うことを一つ選ばせる。 ○自分でたてた課題を、どのように調べていったら良いか、考えを発表し合わせ、調べ方の方法を全体で共有する。 次時には、「まんが沼田の歴史」で調べることを伝える。
	2	○「まんが沼田の歴史」を読み、課題を解決する。	・沼田の歴史がよく分かったぞ。 ・もっと詳しく知りたくなつたなあ。	○「まんが沼田の歴史」を読ませ、解決できるところは、解決する。解決できなくても、その答えが想像できることは、想像させる。 ○「まんが沼田の歴史」を読んで、課題が解決してしまったり、もっと深く知りたいことができたなら、新たな課題を見つけさせる。
	1	○「課題の解決の仕方」を知る。	・解決の方法には、こんなにたくさん方法があるんだな。 ・自分の課題を解決するには、どんな方法が効果的かなあ。	○課題の解決の仕方には、次のような種類があることを意見を出し合ったり、教師からの助言により、わからせる。 ①個人で調べる方法 ・親、親戚、知り合いに聞く。 ・インターネット（パソコン、スマホ）、図書館で調べる。 ・歴史資料館へ行行って調べる。・・・等 ②アポイントメントをとって調べる方法 ・近所でよくものを知っている人に聞く。（個人・集団） ・和尚さんや市役所の人、教育委員会の人など、よく知っている人（金井竹徳氏や高山正氏）に聞く。（集団） ・違う学校の人に聞く。（学級）・・・等 ③調べ方 ・直接インタビューする。（ICレコーダー・カメラ） ・電話で聞く。（丁寧な電話のかけ方） ・手紙を書く。（失礼のない手紙の書き方）・・・等
あ	○自分の選ん	・沼田のことを	○個人で出来るものは、家庭学習として取り組ませる。	

つめる	<p>だ方法で課題を解決する。</p> <p>○内容によっては、全体で講話を聞き、課題を解決する。</p> <p>町の学習から真田の学習へ</p>	<p>知るの楽しいなあ。</p> <p>・もともと沼田のことについて調べたいなあ。</p> <p>・沼田はすてきな町だなあ。</p> <p>・沼田に住んでいられて幸せだなあ。</p>	<p>ノートにわかったことを箇条書きさせる。</p> <p>写真が撮れるようであれば、写真を撮っておく。</p> <p>○対外的にアポイントメントが必要な場合は、担任が事前に電話連絡し、日時を決定して、調べさせる。</p> <p>○多くの児童が共通で聞いた方がよいと思われる情報については、お寺や学校で、全体で話が聞ける場を設定する。</p> <p>○沼田の町の秘密と真田氏とが結びつき、沼田が特別な町であることを実感できるように活動を組み立てる。</p> <p>○手紙については、書き方の指導をし、さらに担任が確認をしてから、投函する。</p> <p>○調査後の礼状の書き方を指導し、書かせる。</p>
えらぶ	<p>○調べてわかったことを、ノートにまとめる。</p> <p>○テーマ毎に発表し、わかったことを付箋紙法（KJ法）で模造紙にまとめる。</p>	<p>・沼田の魅力がしっかり伝わるように、まとめよう。</p> <p>・みんなの目にとまるように、工夫して、きれいにまとめよう。</p> <p>・わかりやすくまとめられると良いな。</p>	<p>○見開き2ページに、まとめさせる。</p> <p>社会科で取り組んだノートまとめを参考にさせる。</p> <p>○箋紙法（KJ法）を理解させるために、最低次の2段階の指導を経験させてから、取り組ませる。</p> <p>①好きな食べ物 ②沼小の好きなところ</p> <p><b>（国語「合図としるし・見てきたことを新聞にまとめよう」と関連）</b> <b>（社会科「沼田市のようす」と関連）</b></p>
発信する	<p>○調べてまとめたことについて、市民の目に触れるような形で発信する。</p>	<p>・沼田の良い所を、沼田の町の人に伝えてあげたいなあ。</p> <p>まとめたことを発信する！</p>	<p>○まとめたことを、FM OZE（沼田エフエム放送株式会社）の番組で取りあげてもらおう。</p> <p>○沼田市の広報誌に、取材に来ていただく。</p> <p>○柳波まつりなどで、発表する。</p> <p>○給食のお昼の放送で、発表する。</p> <p>※できれば、栃木県の「子ども観光大使」に学び、「沼田子ども観光大使」ができるよう、働きかけていく。</p> <p>・第1回全国連合子ども観光大使大会 in 日光 <a href="http://kodomozenkokunikko.jimdo.com/">http://kodomozenkokunikko.jimdo.com/</a></p> <p>・「子ども観光大使」の育て方 松崎力 学芸みらい社</p>
1	<p>○学んだことを保護者に発信する。</p>	<p>・沼田のことがいろいろわかって良かったなあ。</p>	<p>○まとめたことや本単元の学習を通しての感想を、保護者参観で、一人一人発信させる。資料作成は、学級活動や休み時間なども利用して取り組ませる。</p>
評価 規準	<p>○授業やこれまでの経験を通し、興味のあることから課題を選び調べようとしている。</p> <p>○課題について調べたことを分かりやすくまとめ発表しようとしている。</p> <p>○沼田の良さを知り、その良さを多くの人に教えてあげたいと思い、また沼田を大切にしていこうとしている。</p>		
他教科との 関連	<p>国語「合図としるし」「見てきたことを新聞にまとめよう」</p> <p>社会「学校のまわりの様子」「沼田市のようす」</p>		
備考 (行事との 関連, 教材, 外部講師 等)	<p>・講話（金井竹徳氏、高山正氏）</p> <p>・正覚寺、天桂寺の見学、和尚さんのお話</p> <p>・ビデオ上映（FM OZE）</p> <p>・FM OZE の番組出演</p> <p>・広報ぬまたの取材</p>		

**1 単元名** 「沼田の町の中の真田を見つけ、発信しよう」

**2 本研究における単元の位置づけ**

本研究は、「ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童の育成を目指すものであり、そのための手だてとして、総合的な学習の時間において、沼田の町や真田氏についての探究的な学習を取り入れ、探究的活動を通して自己課題を解決していく中で、歴史ある沼田への誇りや、今もその歴史とつながるふるさとに対しての愛着を育むもの」である。

研究を進めるに辺り、児童の実態をアンケートを基に調査した。アンケートの結果から「ふるさと沼田については、肯定的に捉えている児童が多いが、実際に沼田の何を誇るのか、どのような愛着があるのか、沼田のどんな良さを発信したいのか等、はっきりと自信をもって主張できる児童はほとんどいない。」という実態が明らかになった。

本単元「沼田の町の中の真田を見つけ、発信しよう」は、「沼田の町の中に今でも残っている真田氏の足跡を手がかりに、沼田の町や真田に興味をもち、探究的な活動を通して、課題を解決していく」学習である。そして、その学習を通す中で、「沼田の町が城下町としての特徴を残している、歴史ある町であること、沼田城を作り、沼田の町を発展させるために、真田氏が大きく関わっていること、沼田の町には信之の正妻である小松姫の魅力あふれるエピソードが残されていること」などを知ることができる。その上で、「沼田への愛着をさらに深くし、誇りをもつことにより、これを多くの人に伝えたい」という気持ちを強め、「校内外へと発信していくことができる児童」を育てることを目標としている。

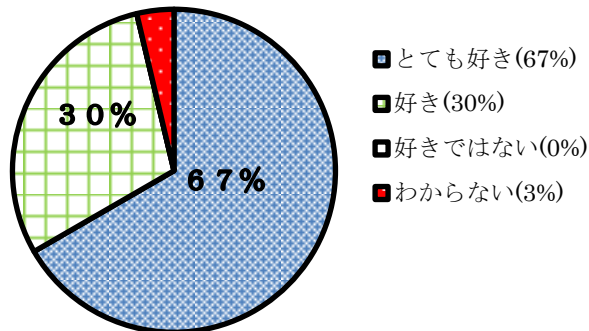
3年生にとって、真田氏の治政、戦国大名としての複雑な歴史を学ぶことは、発達段階から考えると負担が大きい。しかし、自分の住む町を通して、それまで見えなかったことや気づけなかったことに気づき、そこで生まれた疑問を解決していく中で、真田と出会い、3年生なりに理解を深めていくことは、自然であり、3年生の発達段階にふさわしい学習であると言える。

そして、そのような学習を通して、地域の良さに気づき、自分の住む街を大切にしようとする気持ちをもち、学習したことや沼田への思いを校内外へと発信することができるようになることは、まさに本研究の目指すところであり、本研究の土台を支える学習であると考えられる。

**3 本研究に関する児童の実態（男子16名、女子11名、計27名）**

5月、本研究を進めるにあたり、アンケートをとった。以下に、3つの質問の結果を基に、児童の実態を述べる。

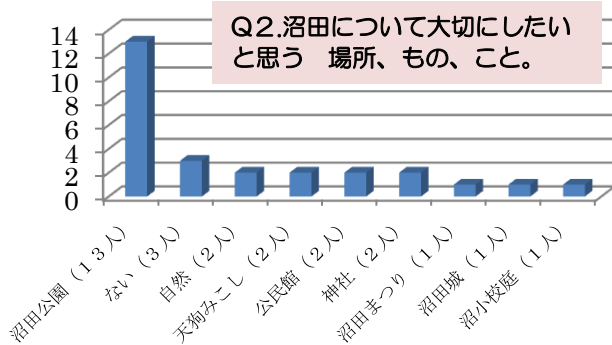
Q1.沼田は好きですか？



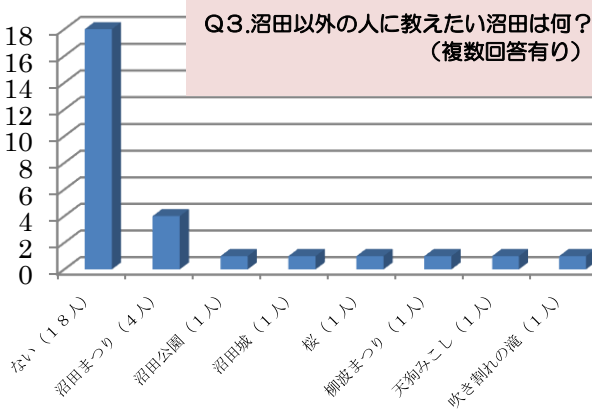
まず、一つ目の質問は、「沼田は好きですか」である。

児童のうち69%が「とても好き」と答え、27%が「好き」と答えた。一人だけ「わからない」と答えたが、ほとんど全員が沼田のことが好きであることがわかる。

次の質問は、「沼田について大切にしたいと思う場所、もの、こと。」



多くの児童は「沼田公園」と答え、その他の児童が自然やお祭りに関わるものをあげていた。「ない」と答える児童も3人いた。



3つ目の質問は、「沼田について、沼田以外の人に教えたいたことはありますか。」である。これは、子供達が、どれほどふるさと沼田について知っているか、関心があるかに、直接関わる質問である。結果は、下のグラフの通りだが、なんと18名の児童が「ない」と答えた。

複数回答可能な質問であったが、複数答えた児童は一人だけで、沼田祭りの4人をのぞけば、沼田公園等の答えを一人が答える程度であった。

以上のアンケートの結果から、児童は沼田を「大好き・好き」と思っているが、それは今まで家族と過ごしてきたふるさとであり、自然な感情としてあるだけで、沼田への愛着が深い、沼田を誇りに思っている、というところまではいかないのだろうと考える。

3年生にとっては、沼田について体験的にしかその良さを知る機会がなく、客観的な知識として蓄積されていないからだろうと思う。だから、他の人に教えることはできない。客観的な言葉として、子供の中に沼田の良さが蓄積されていないからだ。

もしも、このような状態で、数年後、都会へに行くことになったら、都会の便利さ、快適さによって、ふるさと沼田の良さは薄れていってしまうのだろうと思う。他の場所で快

適な暮らしをしていても、ふるさと沼田の良さが次々と体の中から出てくる客観的な言葉をもった子供に育てていく必要を感じる。

本単元は、その第一歩として、非常に適している。

自分が生活している街の中に、数百年前の先人の知恵が残っており、そしてその記憶の断片の中に、胸躍るエピソードが隠されていることを知ることは、3年生の児童にとって驚きの連続だと思うし、もっともっと沼田のことを知りたい、真田のことを知りたいと思うようになるだろう。

実はアンケートの中で、「沼田について調べたいと思うことはありますか」という質問もあった。なんと21名の児童が「ない」と答えた。これはつまり、沼田のことを知らないからであり、何を調べたいかもわからない状態であることがわかる。しかしそれは、ほんのちょっとしたきっかけで、一気に興味が深まる可能性も含んでいるのだろうと思う。

初めての総合的な学習の時間であり、探究的な学習スタイルも初めて体験することになる。本格的な学習にはまだ時間がかかると思うが、その入り口としての学習であれば、可能であろうと思う。児童の反応を見ながら、試行錯誤を繰り返し、児童にとって身近な「町の学習」から「真田の学習」につなげる学習を進めていきたい。

#### 4 単元の目標

沼田の町と真田氏との関わりなどを通して、地域の歴史、伝統文化、人物などを知り、地域の良さに気づき、学習したことや沼田への思いを校内外へと発信することを通して、自分の住む街を大切にしようとする気持ちを持つことができる。

#### 5 評価規準

「IV-1-(1) 単元で育てようとする資質や能力及び態度」を踏まえ、以下の通り設定する。

##### 【関心、意欲、態度】

- ・授業やこれまでの経験を通し、興味のあることから課題を選び調べようとしている。  
[②-ア、②-ウ]
- ・沼田の良さを知り、その良さを多くの人に教えてあげたいと思い、また沼田を大切にしていこうとしている。  
[②-ア、②-イ、③-イ]

##### 【思考、判断、表現】

- ・課題について調べたことを分かりやすくまとめ発表しようとしている。  
[①-ア、①-イ]

##### 【技能】

- ・学習課題を解決するために必要な情報を、自ら考えて見つけ、整理することができる。  
[②-ア、③-イ、③-ウ]

##### 【知識、理解】

- ・沼田の町の特徴や、真田氏との関わりについて、調べた体験や資料などを基に、沼田の良さを理解している。  
[④-ア、④-イ]

(「第3学年 総合的な学習の時間 展開案」から、抜粋)

**あつめる (5時間分の2~3時間目) (20時間分の10~11時間目)**

①ねらい

現地を見学しながらゲストティーチャーの話を聞き、  
まだ解決していない課題を解決できる。

②展開

町の学習から、真田の学習へとつながる授業例

時間	学習活動 「児童の意識」	学習活動への支援等 ◎手立て ・留意点等	評価項目 【方法】
2	<p>◎全体で現地を見学し、講話を聞いて、課題を解決する。</p> <p>「沼田はすてきな町だなあ。」</p> <p>「沼田に住んでいられて幸せだなあ。」</p> <p><b>町の学習から真田の学習へ</b></p> <p>◎わかったことを、ノートに簡条書きで書く。もっと知りたいことについては、質問する。</p> <p>◎家庭学習で、ノートを整理する。</p>	<p>◎金井竹徳氏を講師として、次の点を中心に、現地を見学しながら、説明して頂く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>沼田城について。「5層なのか、4層なのか。」</li> <li>「なぜ今はなくなってしまったのか。」「どこにあったのか。」…等</li> <li>坊新田町について。「なぜ寺がたくさんあるのか。」「なぜ、まっすぐな道が続いているのか。」…等</li> <li>正覚寺について。「小松姫のエピソード」「小松姫の墓について」…等</li> </ul> <p>◎ノートにわかったことを、簡条書きで書かせていく。また、説明が終わった後に、質問があったら質問させる。その際、「沼田城、坊新田町、小松姫」についてしぼって質問させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供達の質問の中で、よく分かりにくいことに関しては、教師がこれを整理して金井氏に尋ねる。逆に、金井氏の質問で、わかりにくいと思われる点についても、教師が整理する。</li> <li>ノートの整理を宿題とする。</li> </ul>	<p>自分の課題で解決したこと(や新たにわかったこと)を、。ノートに簡条書きでまとめることができる。</p> <p>【ノート】 (③ア・ウ) (④ア・イ) (②ア・ウ)</p>

**発信する (2時間分の1~2時間目) (20時間分の18~19時間目)**

①ねらい

FM OZEの番組に出演し、勉強してきたことや沼田の思いを発信することができる。

②展開

探究活動をまとめ、発信する授業例

時間	学習活動 「児童の意識」	学習活動への支援等 ◎手立て ・留意点等	評価項目 【方法】
1	<p>◎調べてまとめたことについて、FM OZEの番組を通して、発信する。</p> <p>「沼田の良い所を、沼田の町の人に伝えてあげたいなあ。」</p> <p>「わかりやすく、まとめて、みんなに伝わると良いなあ。」</p> <p><b>まとめたことを発信する!</b></p>	<p>◎FM OZEの番組で、どのように発信したら今まで勉強してきたことや、沼田への思いが伝わりやすいか、検討させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二つの班に分けて、全員が発表できるように、シナリオを考える。</li> <li>基本は、「質問する人」「答える人」「さらに詳しく解説する人」のように、3つの役割に分けて台詞を分担させたい。</li> </ul> <p>◎FM OZEに出かけ、収録させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前の打ち合わせは、担任がFM OZEの局長さんや担当者と事前に念入りしておく。</li> <li>FM OZEに行った際の、立ち居振る舞いについて、失礼のないように指導しておく。特に、スタジオに入れるのは7、8名なので、外で待っているとき 待ち方に気をつける。</li> <li>放送は各家庭に周知し、聞いてもらえるようお願いする。</li> <li>録音されたものについては、お昼の放送等で流し、全校に聞いてもらえるよう協力をお願いする。</li> </ul>	<p>沼田の町や真田の良さ、すごさをFM OZEの番組を通して(わかりやすく)発信することができる。</p> <p>【放送】 (③イ・ウ)</p>

## 7 単元の過程

単元の学習は、「IV-1-(3) 基本的な指導過程」に示された4つの過程（つかむ、あつめる、えらぶ、発信する）を踏まえて以下の通り設定し、実施する。

### ○つかむ

児童が学習課題を設定するために必要な学習を行う。沼田の町に残る城下町としての特徴や、沼田城についての基本的な知識を抑えておく。普段見慣れた風景を写真に撮り、そこから「あれども見えず」の「沼田の秘密」についてたどり着き、それぞれ課題をもつ。

### ○あつめる

資料・情報を収集する場面である。三段階に分けて行う。一段階目は「まんが沼田の歴史」であり、二段階目は「個人的な調査」であり、三段階目は「ゲストティーチャーに学ぶ」である。ここで、子供達は、沼田の町の秘密と真田氏とが結びつき、沼田が特別な町であることを実感する。

町の学習から真田の学習へ

### ○えらぶ

「あつめる」の場面で収集した資料・情報から、単元のまとめを行うために必要な資料を精選する場面である。取材してわかったことを付箋紙法で類型化したり、伝えたいことを中心にノートにまとめたりする。

### ○発信する

単元のまとめとして、沼田の町の中の真田について、町の人などに伝えたいことを FM OZE の番組の中で紹介したり、校内放送等で紹介したりするなどして、児童の学習を広げる。

まとめたことを発信する！

## 8 本時の学習

授業の視点

「すごいところ」という視点を示し、町と真田について調べたことを付箋紙法（KJ法）を用いてまとめたことは、町と真田の良さをまとめる上で効果的だったか。

### (1) ねらい

調べて分かったことを、「すごいところ」という視点で付箋紙法（KJ法）を使って類型化し、町や真田の良さを、短い言葉でまとめることができる。

### (2) 準備

教師：付箋紙・画用紙・マジックペン

児童：総合的な学習の時間のノート・筆記用具

### (3) 展開

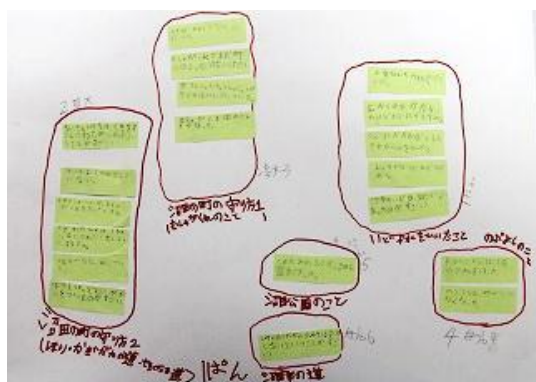
時間	学習活動「児童の意識」	指導上の留意点	◎手立て ・留意点等	評価項目【方法】
10	1, 今までの学習の中で特に心に残った「すごいなあ」と思ったことについて、付箋紙に書く。	◎ノートに書いたわかったことの中から、特にすごいなど思ったことについて、5つ選んで付箋紙に短く書くことができる。 ・グループに分けてから、付箋紙、画用紙を配布する。		



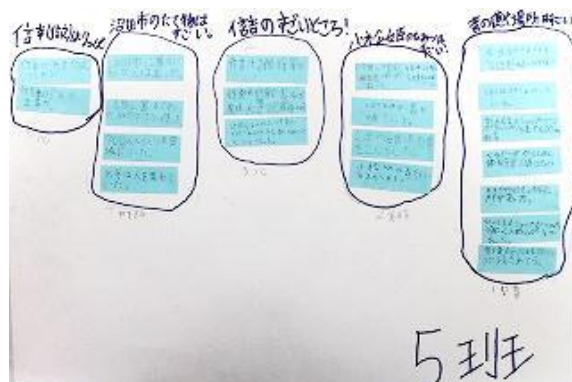
10	2, 自分の選んだ5つを発表する。	◎班長から順番に、グループの中で意見を発表させる。	
10	3, 班で出てきた付箋紙を、類型化する。	◎同じグループ同士でまとめ、それに短く見出しをつけさせる。 ・「強くて優しくかった小松姫」「敵を混乱させる不思議なしかけ」「テレビに出るかもしれない沼田城」「みりよくがいっぱい、沼田の町」「たたかいに強い沼田の町」「沼田の弱点」など、場合によっては、例示する。 ・速くできた班は、マジックで見出しや囲いをなぞらせる。 ・どれを発表するのか、分担を決めさせる。 ・それでもグループで時間差がある場合、発表の練習をさせておく。	☆ 沼田の町や真田の良さ、すごさを付箋紙にまとめ(簡単な見出しをつけ)ることができる。【付箋紙・観察】
13	4, 発表する。	◎1班から順に前に出てきて発表させる。	
2	5, 振り返りを書く。	◎授業の振り返りをノートに書かせる。 ・時間が余れば、発表させる。	

#### (4) 本時のまとめ

- ・本時は、付箋を類別し、短い言葉でまとめるという作業だったが、これについてはどの班もそれぞれ工夫を凝らしてまとめており、本時の目標は達せられた。
- ・中には、「沼田の町の守り方1 (むしゃがくれのこと)」「沼田の町の守り方2 (ほり・かぎがたの道・せまくなる道)」のように、町の良さに触れたまとめ方をしている班があったり(写真1)、「伸幸(信之)はりっぱ」「沼田市のたて物はすごい」「信吉のすごいところ!」「小松姫のひみつはすごい!」「昔の道や場所はすごい!」のような「すごさ」に着目した、沼田の町や真田のすごさの本質を、短い言葉でまとめ、愛着や誇りを感じさせる、大人顔負けの見事なまとめ方をしたりする班もあった(写真2)。



(写真1: 沼田の良さに触れたまとめ)



(写真2: 愛着や歩を感じさせるまとめ)

### 9 単元を通じた学習経過

- つかむ1 (全4時間) 内部情報を蓄積し、課題を見つける
  - ①沼田市に寺院が多いことに気付く
  - ②沼田市には2車線から1車線になる道があることに気付く
  - ③沼田市には、カギ型に曲がる道があることに気付く
  - ④沼田上の昔の地図には、4層の城になっているものがあることに気付く
- つかむ2 (全4時間)



自分のたてた課題を自分の力で解決し、新たな課題を見つける

- ①今までの勉強を元に、課題をたてる
- ②「まんが沼田の歴史」を読んで解決する
- ③家の人に聞いたり、知り合いに聞いたりして、課題を解決する

町の学習から真田の学習へ

○あつめる（全5時間）

解決できない課題を明らかにし、ゲストティーチャーから学び、課題を解決する

- ①金井竹徳氏から沼田城、小松姫等について学ぶ（写真3）
- ②高山正氏から、町づくりの秘密、用水、信吉等について学ぶ（写真4）



左：写真3  
小松姫の墓について金井氏から学ぶ。  
右：写真4  
信吉の墓や城堀川について学ぶ。

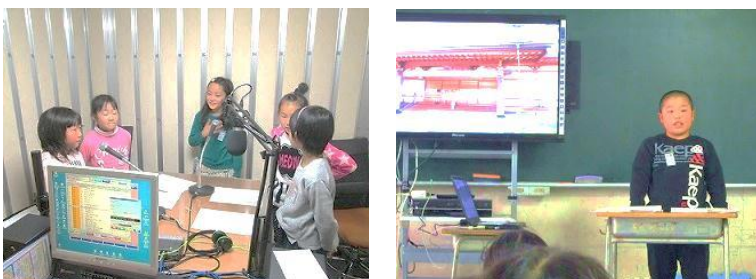
○えらぶ（全4時間）

学習したことをKJ法でまとめたりノートにまとめたりする。

- ①KJ法（付箋紙法）でまとめる
- ②見開き2ページで、ノートにまとめる

まとめたことを発信する！

- 発信する1（全2時間） 学んだことをFM OZEの番組で発信する（写真5）
- 発信する2（全1時間） 学んだことや感想を、授業参観で発信する（写真6）



左：写真5  
FM OZEの番組で、まとめたことを発信する。  
右：写真6  
授業参観で、まとめたことを発信する。

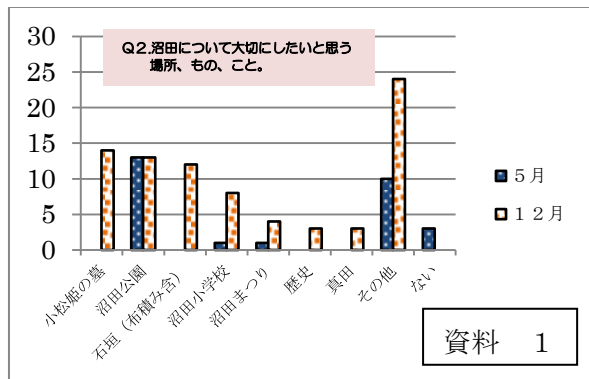
## 10 児童の変容

### (1) ふるさと沼田への学習意欲は高まったか

本実践後（12月）に5月と同様のアンケートを実施したところ、右のような変化が見られた。

資料1のグラフは、「沼田について大切にしたいと思う場所、もの、こと」を問うたがその答えの量が3.2倍、資料2では、沼田以外の人に沼田の何を教えたいかを問うているが、そこであげられた答えの量は5.5倍へと、それぞれ激増した。量的にも高まったことが分かる。

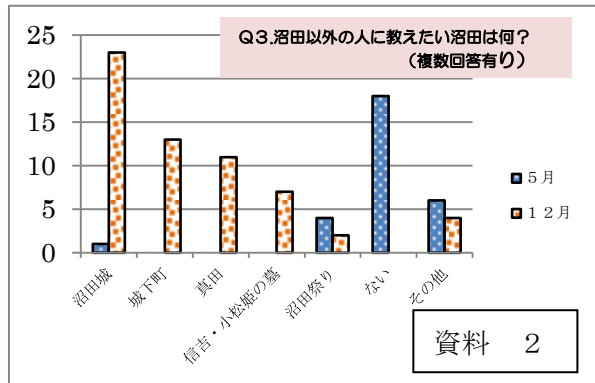
注目すべき点は、「ない」と答えた児童の数である。資料1では3名、資料2



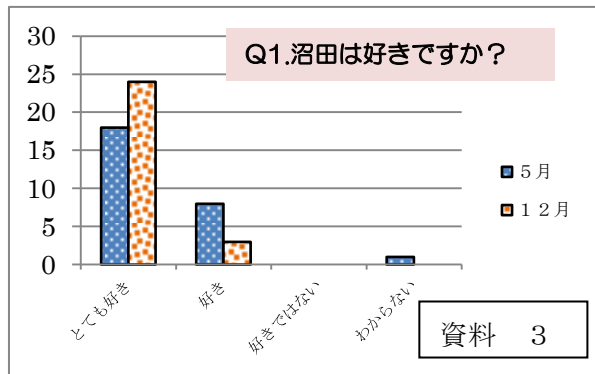
では18名いたものが、どちらも実践後には0になっているということだ。

ここから、何がわかるのか。それは、子供達の中に、沼田の良さが、ぎっしりと詰め込まれたということだろうと思う。例えば資料2の、沼田以外の人に教えたいことで、5月にあげられていたのは、「沼田祭り(3名)」「吹割の滝」「桜」「柳波まつり」「天狗みこし」「自分」「沼田公園の動物」「沼田(それぞれ1名)のわずかに8つだけであった。最も多かったのは、「なし」と答えた18名だったのだ。複数回答したのはわずかに1人だけであった。

しかし、本実践後、子供達が挙げた項目は18項目に及んだ。主なものをあげてみる。



資料 2



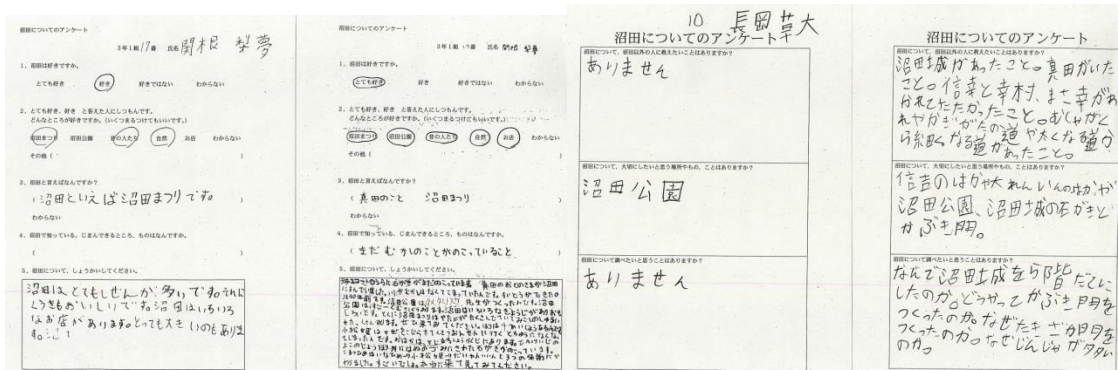
資料 3

沼田城・石垣・お堀・沼田城で勤めていた人 23名「城下町・門・400年前の町13名」「真田・小松姫 11名」「信吉・小松姫の墓 7名」「沼田祭り 2名」であった。同じ内容のことを言うのでも、実に具体的で自信をもって答えていることが伝わってくる。「ない」と答えた児童は一人もいなかった。複数回答も1名から15名へと激増した。

内容項目に明らかな違いが表れ、質的な高まりも見とれる。実践前は日常生活の中で体験したり触れたりしていた沼田に関するものだけであったが、実践後は真田や城下町としての沼田の部分、色濃く反映されている。

町の学習から真田の学習へとつなげたことで、児童の「沼田を学びたい」という意欲が大きく高まり、積極的に学習できたことを表していると考えられる。

(2) ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童を育成できたか



資料 4 アンケート用紙と実践後の感想1

感想 沼田城の地図は見た事なかったけど、見てみたらすごいなあ、と思いました。それに、ほんとうは、5かいだてでわざわざ地図をかく時に4かいだてにして、気をつけるなんて、すごいなあと思いました。それに、むしゃがくれに、わたしはきづいてなかったし、そんなしくみを聞いた事もなかったので、きいた時は『そんなんあるんだなあ』と、思いました。沼田城のしくみは、本当にすごくて、昔の人は、よくそんなしくみをかんがえられていて、すごいなあ、思いました。このべんきょうをして、沼田の事と、真田の事もよくわかってよかったです。もっとたくさんのべんきょうして、沼田の事、真田の事を、もっと、よくしりたいなあ、思いました。それに、他の、町の、人たちにも、沼田の事を、してもらいたいです。

資料 5 アンケート用紙と実践後の感想 2

資料3のグラフは、「沼田が好きかどうか」を問うたものだ。これは実践前から圧倒的に肯定的な意見が多く、肯定してないのは、5月に1名が「わからない」と答えたただけであったが、実践後は27名全員が「好き」と答えている。とても好きと答えた児童が5月より6名増えた。

資料4は、二人の児童の実践前後のアンケートを並べて比較したものだ。それぞれ左右では、書かれている内容の量も質も違いは明白だ。実践後の方は、スペースが書き足りないくらい、ぎっしりと、沼田の良さが書き込まれている。

資料5は、実践後の児童の感想だ。読みにくいので、以下に書き起こす。  
 「沼田城の地図は、見た事なかったけど、見てみたらすごいなあ、思いました。それに、ほんとうは、5かいだてで、わざわざ地図をかく時に4かいだてにして、気をつけるなんて、すごいなあと思いました。それに、むしゃがくれに、わたしはきづいてなかったし、そんなしくみを聞いた事もなかったので、きいた時は『そんなんあるんだなあ』と、思いました。沼田城のしくみは、本当にすごくて、昔の人は、よくそんなしくみをかんがえられていて、すごいなあ、思いました。このべんきょうをして、沼田の事と、真田の事もよくわかってよかったです。もっとたくさんのべんきょうして、沼田の事、真田の事を、もっと、よくしりたいなあ、思いました。それに、他の、町の、人たちにも、沼田の事を、してもらいたいです。」

他にも、次のようなタイプの感想も見られた。  
 「この勉強を通して、真田の事や町のひみつで、すごくいいまちなんだなあとおもいました。ぼくは、こんな町にうまれてすごくうれしいなあとおもいました。すごくうれしいです。」  
 「僕は、さなだのことや沼田の町とかをおそわる前は、ぜんぜんしらなかつたけど、おそわったらどんどんしりたくなりました。むしゃがくれとか、沼田の昔のこととかを、もっとしりたいです。」

これらの感想は、中学年の目指す児童像「自分の住んでいる地域だけでなく、隣接している地域の沼田や、直接触れ合う機会のない沼田の偉人について良いなあと思うことを、一つか二つ、理由をつけて発信できる児童」に沿った感想に当てはまる事が分かる。

児童は、探求的な町と真田の学習をまとめて発信したことで、自信をもって沼田のことが語れるようになり、誇りや愛着へとつながったことが分かる。

本実践を通し、児童にとって、沼田は「誇りある沼田」「愛する沼田」となったのだろうと考える。本実践は沼田への誇りと愛着をもった児童を育てるのに有効であったと言える。

## VI 研究のまとめ

成果

〈探究的な町の学習から真田の学習へとつないだことで、ふるさと沼田に対する学習意欲が高まったか。〉

本研究では、ふるさと沼田について、児童が自ら課題を見つけ、課題を解決する度に、次々に生まれてくる新たな課題をさらに解決していく探究的な学習を行ってきた。

その中で、研究の柱の一つとしたのが「町の学習」から「真田の学習」へと探求的な活動をつなげたときに、児童の学習意欲が高まるかという検証であった。

総合的な学習の時間が始まったばかりの3、4年生が実施学年だったこともあり、児童にとって身近な「町の学習」からスタートさせ、そして、「真田の学習」へとつなげていった。

川田小の4年生は身近な水の問題から真田が作った城堀川へ、池田小4年生は地域にある用水からそれを作った真田氏へ、そして、沼田小3年生は町の特徴（お寺の多さ、道の広さ、カギ型の道、沼田城）から真田氏の存在へとつなぎ、沼田のもつ城下町としての優れた機能や、真田氏の卓越した治政、魅力的な人物像、400年も前から積み上げられてきた先人の努力等に触れることができた。

探究的な真田の学習をした後の子供達は、「沼田について大切にしたいと思う場所、もの、こと」の量が増えたり、「沼田以外に住んでいる人に教えたいこと」として、真田に関する場所や人物を答えるなど質的な高まりが増えたりした。こうした姿からは、「町の学習」から「真田の学習」へと探求的な学習をつなげたことで、沼田に対する学習意欲を高めることができた児童の変容を見ることができた。大変大きな変容であり成果であった。

〈探究的な町と真田の学習をまとめて発信したことは、ふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童を育成していくために有効であったか。〉

探求的な町と真田の学習を行うだけでなく、得た知識を整理し、FM OZE の番組を通して発信できたことは、大変有効な体験であった。川田小4年生は、クイズ形式で真田の業績である城堀川について発信した。池田小4年生は、沼田の自慢や調べて分かった感想と真田氏の音読劇を発信した。そして、沼田小3年生は沼田の町の特徴や沼田城、真田氏の学習で心に残ったことをランキングでまとめ発信した。多くの児童が、FM OZE を通して、自分たちが行った探求的な町と真田の学習を自信をもって、発表することができていた。それだけでなく、各家庭でも保護者が子供達の発信した内容を良くほめ、讃えてくれた。子供達にとって、それは大きな成功体験であり、自己肯定感も高まった。このことは、「沼田は好きか」という2回目のアンケート結果や児童の感想からも、児童の変容は明らかであった。探求的な町と真田の学習をまとめて発信したことは、児童が沼田を誇りに思い、そして沼田への愛着を深めることに大変有効であった。

以上の結果より、総合的な学習の時間における探求的な「町と真田の学習」を通して、多くの児童が、ふるさと沼田への誇りと愛着をもつことができた。町の学習に対



する興味関心を地域で活躍した武将「真田」の学習につなげることで、さらにふるさと沼田への誇りと愛着をもった児童が育成できたことは、平成25年度の研究所の実践課題ともつながる実践となり、大きな成果であったと感じている。

## (2) 課題

- このように子供達が大きく具体的に変化する教材は、他にほとんど思いつかない。ぜひ、これを1年だけの学習で終わらせず、毎年、あるいは隔年でも良いので、復習し、さらに新しく、正しい知識を獲得できる段階的な教育課程が作られていくと良いと思う。
- 城下町の沼田としての特徴や真田氏の歴史だけでなく、各地域に連綿とつながっている、それぞれの地域の歴史を学ぶ単元を次々と生み出し、これを沼田市のネットワークとして広げ、つなげていけたら素晴らしいと思う。学校教育は、次々と新しい課題を抱え込み、肥大していくばかりだけれど、ぜひ、郷土を学ぶ教育は、不易なものであってほしいと強く願う。
- 今回の実践には、各教科との横断的なつながりは視野に入れたが、道徳との関連までは入れることができなかった。道徳の時間まで関連させることができると、郷土を学ぶ教育としてより効果が高くなると期待できる。

## Ⅶ 引用・参考にした主な文献、研究等

### 《引用文献》

- ・小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間」編 文部科学省
- ・中教審答申 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申） 平成20年1月17日
- ・平成27年度学校教育の指針（解説編） 群馬県教育委員会
- ・はばたく群馬の指導プラン 平成24年3月 群馬県教育委員会
- ・はばたく群馬の指導プラン 実践の手引き 平成26年3月 群馬県教育委員会
- ・平成27年度沼田市教育行政方針 沼田市教育委員会

### 《参考文献、研究等》

- ・研究紀要第52集 平成25年度沼田市教育研究所 小中合同班
- ・まんが沼田の歴史 下 近世・近代・現代編 沼田市立沼田小学校
- ・真田氏時代の沼田城下町 文化財散策ガイド 沼田市教育委員会
- ・真田のとのさまが築いた沼田を知るガイドマップ 沼田市教育委員会
- ・真田のとのさまが築き上げた沼田を知る 後編 高山正氏作成資料
- ・利根沼田の真田氏の足跡を訪ねて 郡市合同社会科研修会資料 高山正先生作成

本研究に協力いただいた沼田市教育研究所の吉野所長を始め職員の方々、研究の方向性を示唆してくださり、きめ細かくご指導いただいた沼田市教育委員会の吉野指導主事、各校校長先生方に感謝し、後記と致します。1年間本当にありがとうございました。